

特別支援学校（聴覚障害）における キャリア教育実態調査報告書

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

聴覚障害教育研究班

平成 29 年 9 月

はじめに

我が国において「キャリア教育」という文言が公的に登場し、その必要性が提唱されたのは、平成 11 年 12 月、中央教育審議会「今後の初等中等教育と高等教育の接続の改善について（答申）」でした。

本答申では、「学校と社会及び学校間の円滑な接続を図るためのキャリア教育（望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育）を小学校段階から発達段階に応じて実施する必要がある。」とし、「キャリア教育の実施に当たっては家庭・地域と連携し、体験的な学習を重視するとともに、各学校ごとに目標を設定し、教育課程に位置付けて計画的に行う必要がある。また、その実施状況や成果について絶えず評価を行うことが重要である。（第 6 章）」ことが示されました。そして、本答申が示されてから、10 余年が経過しました。

現在、特別支援学校（聴覚障害）においては、在籍児童生徒の多様化（障害の程度、コミュニケーション法等）に対応し、幼稚部から高等部を視野に入れ、各段階を通してキャリア教育を推進しています。

また、近年は、学校卒業後までを見通した一貫教育の重要性が再認識され、キャリア教育の充実強化は、特別支援学校（聴覚障害）の解決すべき課題の一つとなっています。このような点を踏まえ、本研究所聴覚障害教育研究班では、全国特別支援学校（聴覚障害）におけるキャリア教育の現状と課題を明らかにすることを目的として、アンケート調査を実施することとしました。

本調査報告書は、特別支援学校（聴覚障害）における学部（幼稚部、小学部、中学部、高等部）主事、キャリア教育を担当する分掌部に所属する教員を対象に実施し、その結果の概要をまとめたものです。本書が、今後の特別支援学校（聴覚障害）のキャリア教育推進の参考資料をして活用されることを願っています。

平成 29 年 9 月

聴覚障害教育研究班

原田 公人

特別支援学校（聴覚障害）におけるキャリア教育実態調査

目 次

はじめに

第1章 調査内容	1
第2章 調査結果（学部主事・キャリア教育担当者）	3
1 回答者	
(1) 回答者の担当学部	
(2) 回答者の担当	
(3) 回答者の教職経験年数	
(4) 回答者の特別支援教育（聴覚障害）経験年数	
(5) 回答者の特別支援教育（聴覚障害）以外の経験の有無	
(6) 回答者の現在の勤務校在籍年数	
(7) 回答者の各学部の担当経験年数	
2 指導の実際	
(1) キャリア教育の指導場面	
(2) キャリア教育に関わる指導（個別指導、集団指導）	
(3) キャリア教育を実施する際に参考になっている資料	
(4) 個別の指導計画（個別の教育支援計画を含む）の活用	
(5) キャリア教育の推進・充実のために学部で課題であると思われるもの	
(6) キャリア教育の指導内容	
3 学校卒業後の進路	
4 キャリア教育に関わる指導内容の評価方法	
第3章 連携している関係諸機関と卒業生等との交流	23
(1) 連携している関係機関	
(2) 卒業生との交流	
(3) 卒業生の保護者との交流	
第4章 調査資料	25
1 学部主事	
2 キャリア教育担当者	

おわりに

資料 特別支援学校（聴覚障害）におけるキャリア教育の実態調査票

第1章 調査内容

本調査は、以下の内容で実施した。

1. 調査名

特別支援学校（聴覚障害）におけるキャリア教育実態調査

2. 目的

全国の特別支援学校（聴覚障害）におけるキャリア教育の現状の把握と、学部ごとの課題を明らかにすることを目的とする。

3. 調査対象

全国の特別支援学校（聴覚障害）92校

①幼稚部、小学部、中学部、高等部・専攻科の学部主事各1名

②幼稚部、小学部、中学部、高等部・専攻科のキャリア教育担当者各1名

4. 調査期間

平成28年10月～12月

5. 調査方法

特別支援学校（聴覚障害）校長宛に調査依頼書を送付し、回答者に対して本研究所Webページの調査票ファイルに回答の上、回答用電子メールアドレスに送付を求めた。
本調査は、本研究所倫理審査委員会の許可を得て実施した。

6. 調査内容（項目）

(1) 基本情報	担当学部、担当、教職経験年数、特別支援教育（聴覚障害）経験年数、特別支援教育（聴覚障害）以外の経験の有無、勤務校在籍年数、担当学部の担当経験年数
(2) 指導の実際	キャリア教育の指導場面、キャリア教育に関わる指導内容（個別指導・集団指導）、キャリア教育を実施する際に参考になっている資料、個別の指導計画（個別の教育支援計画を含む）の活用状況、キャリア教育の推進・充実のための学部での課題、キャリア教育で特に重視して取り組んでいる指導内容、今後考慮する必要がある指導内容
(3) 学校卒業後の進路 （高等部のみ）	継続的に進学、就労（雇用）するために重要なこと
(4) キャリア教育に関わる指導内容の評価方法	キャリア教育に関わる指導内容の評価方法
(5) 連携している関係諸機関と卒業生等との交流	連携している福祉や行政機関、医療機関等 卒業生との交流、卒業生の保護者との交流

7. 回答者

特別支援学校（聴覚障害）65校（70.7%）より回答があった。学部主事 202 人、キャリア教育担当者 152 人から回答を得られた（表 1-1）。

なお、学部主事とキャリア教育担当者を兼務しているとの回答が、幼稚部 1 人、小学部 1 人、中学部 2 人、高等部 2 人であった。本調査では、兼務している者については、学部主事、キャリア教育担当者両方に加え集計した。

本調査結果の割合は小数第 2 位で四捨五入した結果を示す。そのため、合計値が 100% にならないことがある。

表 1-1 本調査の回答者（人・%）

有効回答数(N)		学部主事	キャリア教育担当者
有効回答数(N)	354	202(57.1)	152(42.9)
幼稚部	88	56(63.6)	32(36.4)
小学部	96	54(56.3)	42(43.8)
中学部	92	51(55.4)	41(44.6)
高等部	78	41(52.6)	37(47.4)

第2章 調査結果（学部主事・キャリア教育担当者）

1 回答者

（1）回答者の担当学部

回答者（学部主事）（以下「学部主事」）から202件の回答が得られた。この内、担当学部の割合は、幼稚部27.7%（56件）、小学部26.7%（54件）、中学部25.2%（51件）、高等部20.3%（41件）であった。

回答者（キャリア教育担当者）（以下「キャリア教育担当者」）から152件の回答が得られた。この内、担当学部の割合は、幼稚部21.1%（32件）、小学部27.6%（42件）、中学部27.0%（41件）、高等部24.3%（37件）であった（図2-1-1）。

学部主事、キャリア教育担当者共に、各学部からそれぞれ、20%～27%とほぼ同等の割合の回答が得られた。

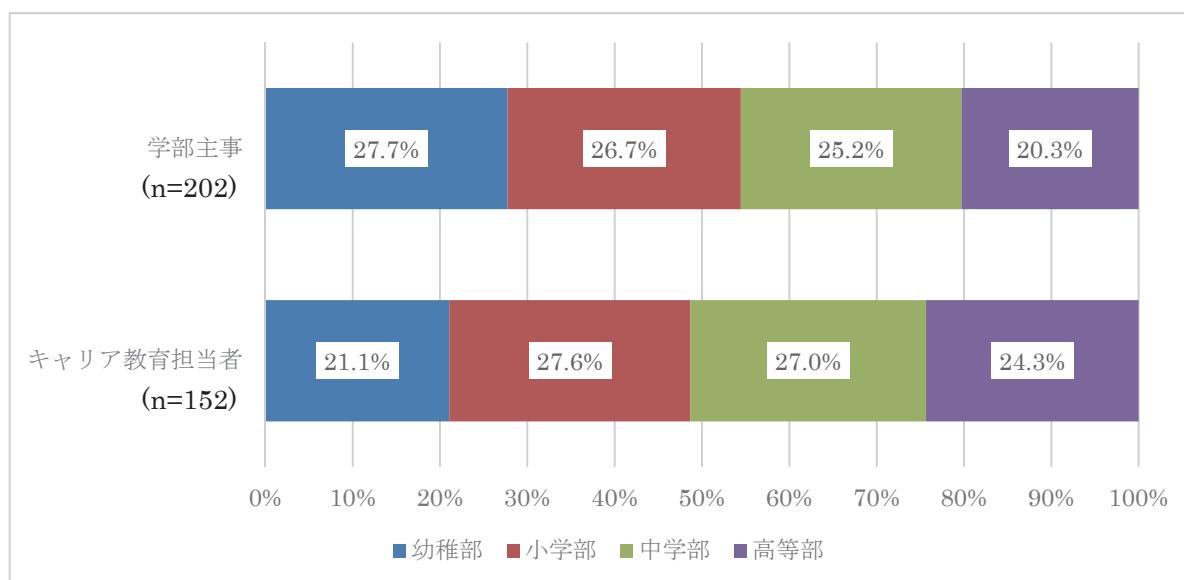


図 2-1-1 回答者の担当学部（%）

(2) 回答者の担当

回答者の担当について、学級担任、学部所属等を兼任しているか質問した結果、学部主事から 169 件、キャリア教育担当者から 156 件の回答が得られた。

学部主事では、学部所属の割合が 69.8% (118 件) であり、キャリア教育担当者では、学部所属の割合が 19.9% (31 件) であった。また、学部主事では、学級担任の割合が 16.0% (27 件) であり、キャリア教育者の担当では、学級担任の割合が 43.6% (68 件) であった (図 2-1-2)。

学部主事では学部所属の割合が多い一方、キャリア教育担当者では学級担任の割合が多かった。学部主事の学部所属の割合が約 70% であることに比して、キャリア教育担当者の学部所属の割合が約 20% 程度であった。

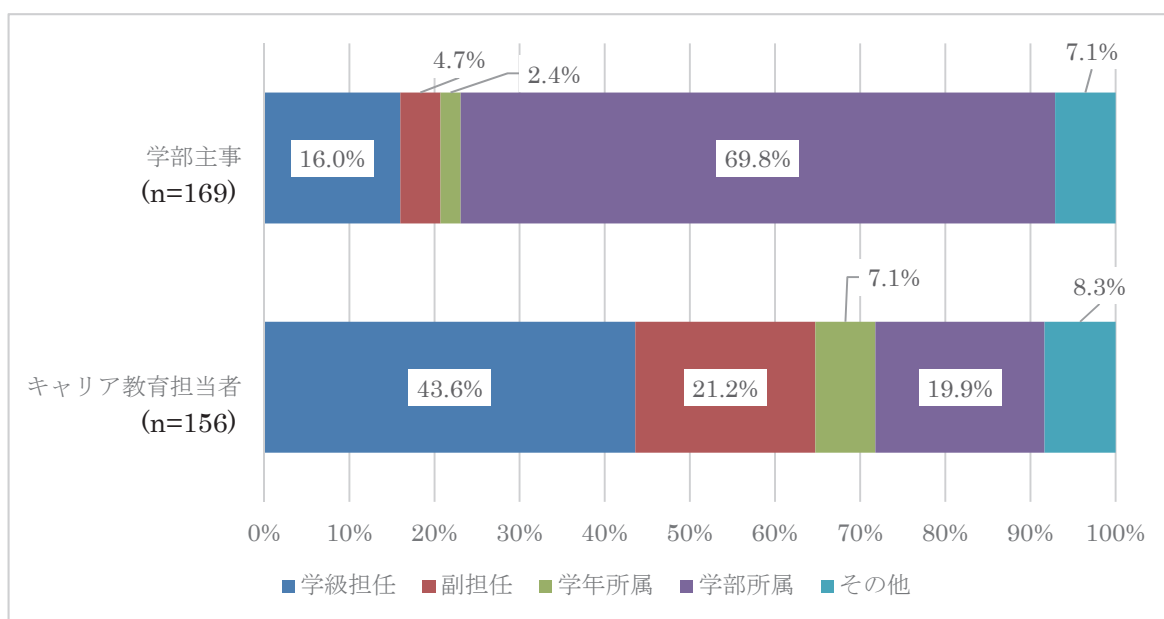


図 2-1-2 回答者の担当 (複数回答：%)

(3) 回答者の教職経験年数

回答者の教職経験年数について質問した結果、学部主事から 202 件、キャリア教育担当者から 152 件の回答が得られた。

学部主事では、15 年以上と回答した割合が 95.5% (193 件) であり、キャリア教育担当者では、15 年以上と回答した割合が 60.5% (92 件) であった (図 2-1-3)。

学部主事、キャリア教育担当者共に、15 年以上と回答した割合が多く、特に学部主事は、95%以上であった。キャリア教育担当者は、教職経験年数が 15 年以上と回答した割合が約 60%であり、5～10 年未満、10 年～15 年未満経験した割合が約 15%であった。

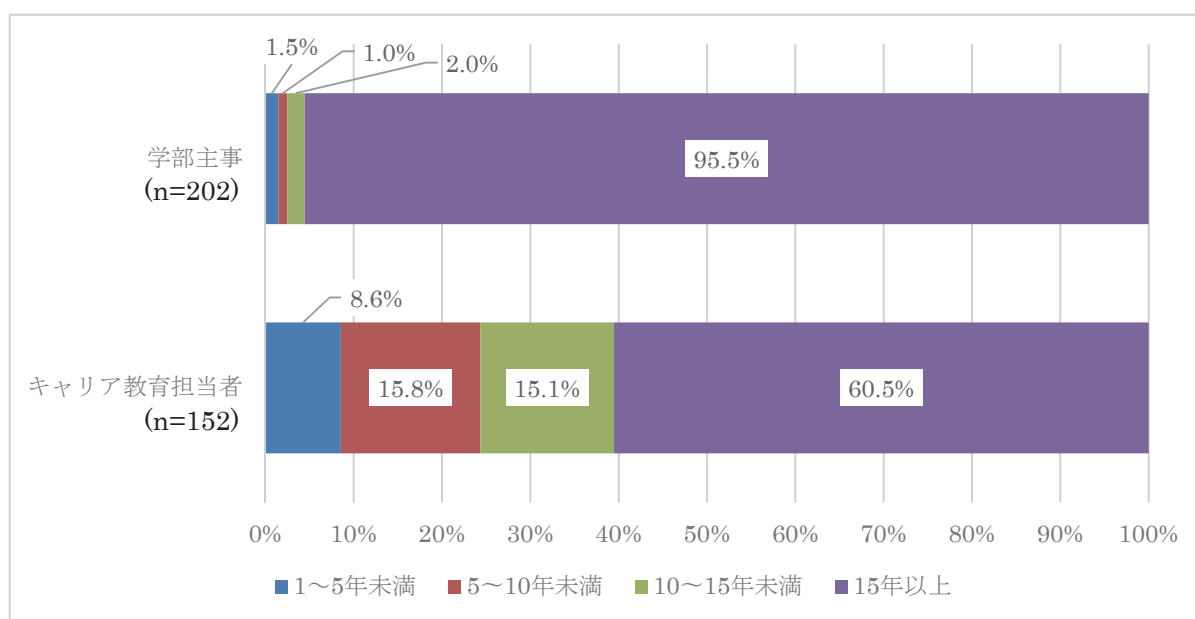


図 2-1-3 回答者の教職経験年数 (%)

（４）回答者の特別支援教育（聴覚障害）経験年数

回答者の特別支援教育（聴覚障害）経験年数について質問した結果、学部主事から 202 件、キャリア教育担当者から 152 件の回答が得られた。

学部主事では、15 年以上経験した割合が 46.3%（94 件）であり、キャリア教育担当者では、15 年以上経験した割合が 20.4%（31 件）であった。また、学部主事では、1～5 年未満経験した割合が 17.2%（35 件）であり、キャリア教育担当者では、1～5 年未満経験した割合が 35.5%（54 件）であった（図 2-1-4）。

学部主事の特別支援教育（聴覚障害）経験年数を 15 年以上と回答した割合は 46.3%（94 件）であった。キャリア教育担当者の特別支援教育（聴覚障害）経験年数を 1～5 年未満と回答した割合は 35.5%（54 件）であった。

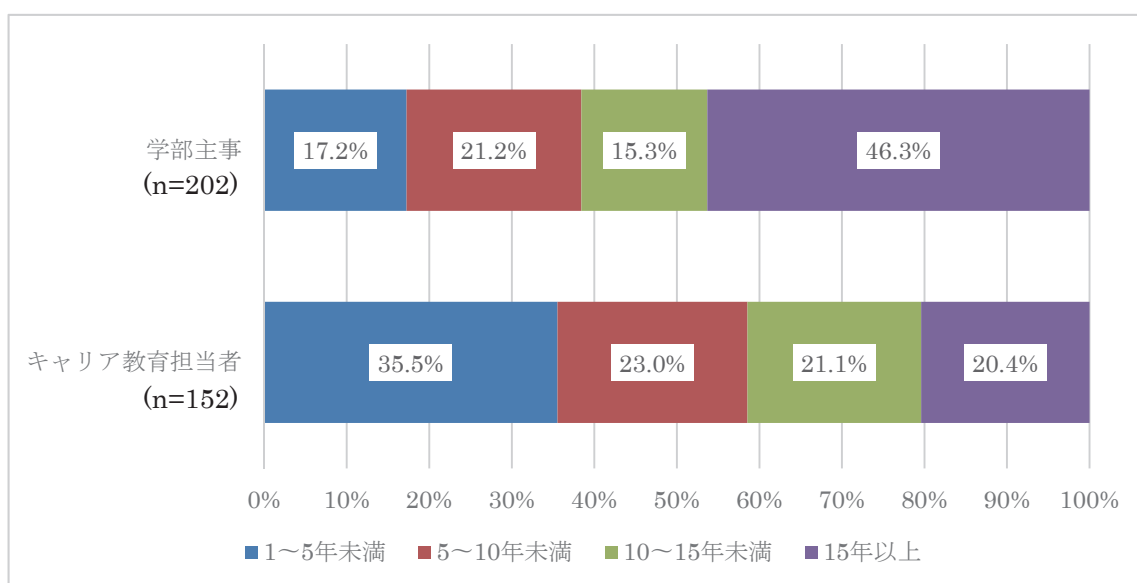


図 2-1-4 回答者の特別支援教育（聴覚障害）経験年数（％）

(5) 回答者の特別支援教育（聴覚障害）以外の経験の有無

回答者の特別支援教育（聴覚障害）以外の経験の有無を質問した結果、学部主事から 201 件、キャリア教育担当者から 153 件の回答があった。

学部主事では、あると回答した割合が 80.1%（161 件）、キャリア教育担当者では、あると回答した割合が 70.6%（108 件）であった。（図 2-1-5）。

学部主事、キャリア教育担当者共に、特別支援教育（聴覚障害）以外の経験があると回答した割合が多かった。

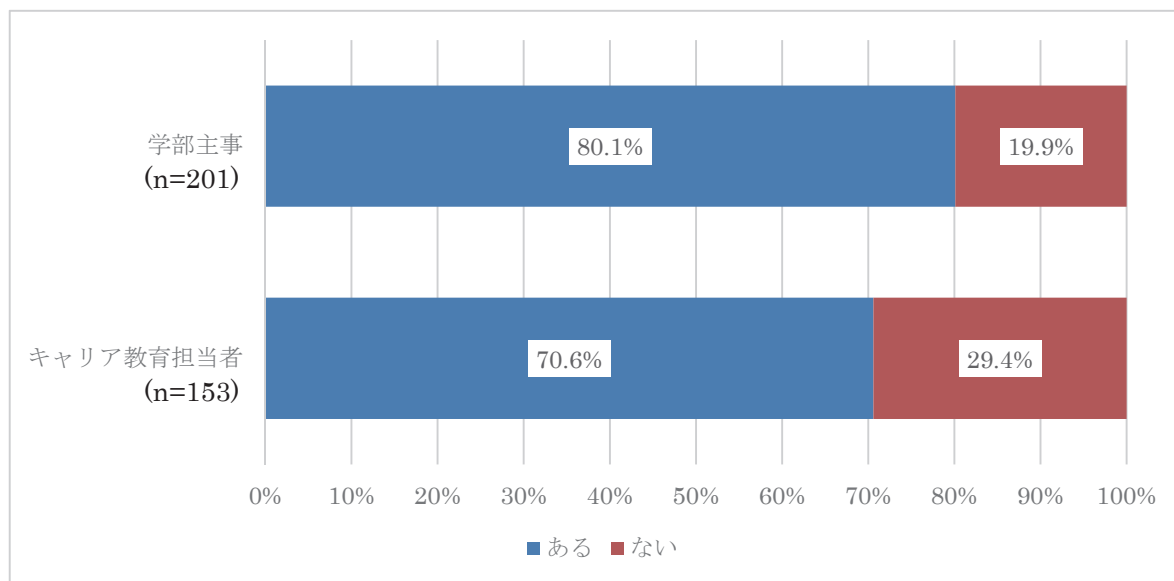


図 2-1-5 回答者の特別支援教育（聴覚障害）以外の経験の有無（%）

(6) 回答者の現在の勤務校在籍年数

回答者の現在の勤務校在籍年数を質問した結果、学部主事から 202 件、キャリア教育担当者から 153 件の回答があった。

学部主事では、1～5 年未満と回答した割合が 35.6% (72 件)、キャリア教育担当者では、1～5 年未満と回答した割合が 50.3% (77 件) であった (図 2-1-6)。

学部主事、キャリア教育担当者共に、1～5 年未満と回答した割合が多かった。

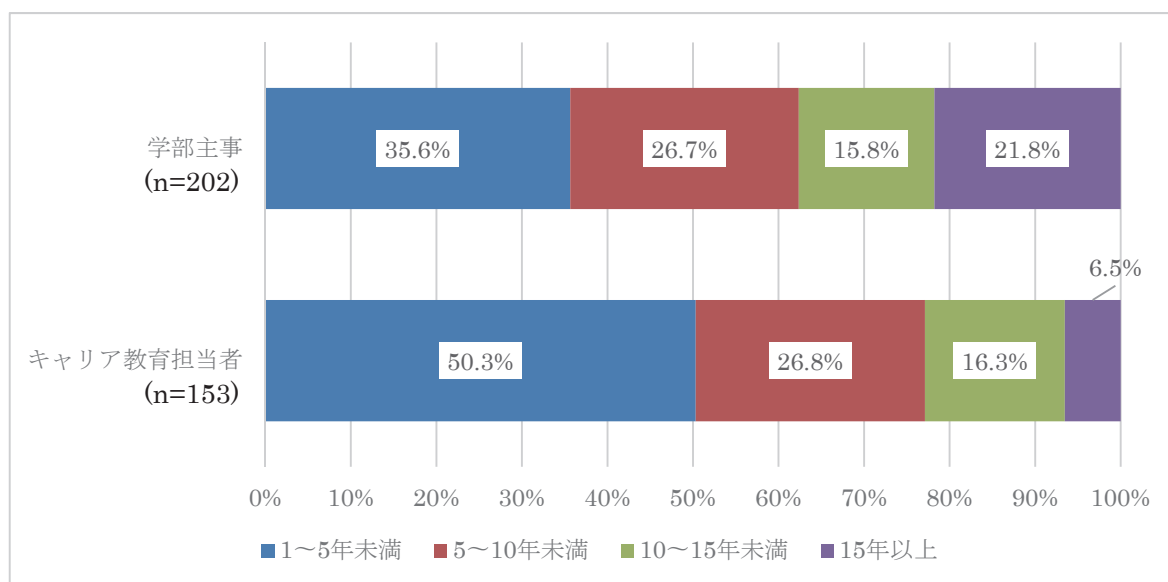


図 2-1-6 回答者の現在の勤務校在籍年数 (%)

(7) 回答者の各学部を担当経験年数

回答者の各学部の担当経験年数を質問した結果、全体で、学部主事から 201 件、キャリア教育担当者から 150 件の回答があった。

この内、幼稚部では、学部主事は 1～5 年未満が 25.5% (14 件) であり、キャリア教育担当者では、1～5 年未満が 51.7% (15 件) であった (図 2-1-7-1)。

小学部では、学部主事は 1～5 年未満が 22.2% (12 件) であり、キャリア教育担当者では、1～5 年未満が 48.8% (21 件) であった (図 2-1-7-2)。幼稚部、小学部共に、1～5 年未満の割合が同じような状況が見られた。

中学部では、学部主事は 1～5 年未満が 35.3% (18 件) であり、キャリア教育担当者では、1～5 年未満が 48.8% (20 件) であった (図 2-1-7-3)。中学部では、学部主事の 1～5 年未満の学部の担当経験年数が幼稚部、小学部に比べ多い割合を示した。

高等部では、学部主事は 1～5 年未満が 19.5% (8 件) であり、キャリア教育担当者では、1～5 年未満が 18.9% (7 件) であった (図 2-1-7-4)。また、学部主事は 5～10 年未満が 34.1% (14 件) であり、キャリア教育担当者では、5～10 年未満が 37.8% (14 件) であった。高等部では、学部主事、キャリア教育担当者共に 5～10 年未満が多い割合を示した。

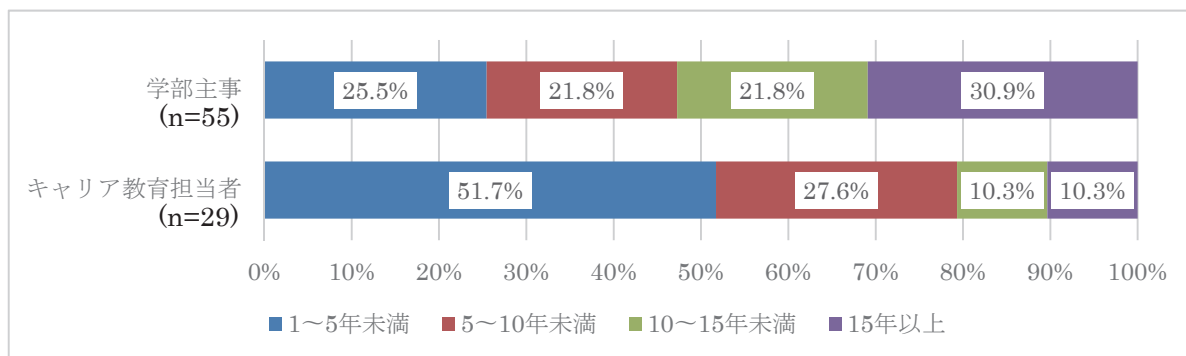


図 2-1-7-1 回答者の幼稚園部の担当経験年数 (%)

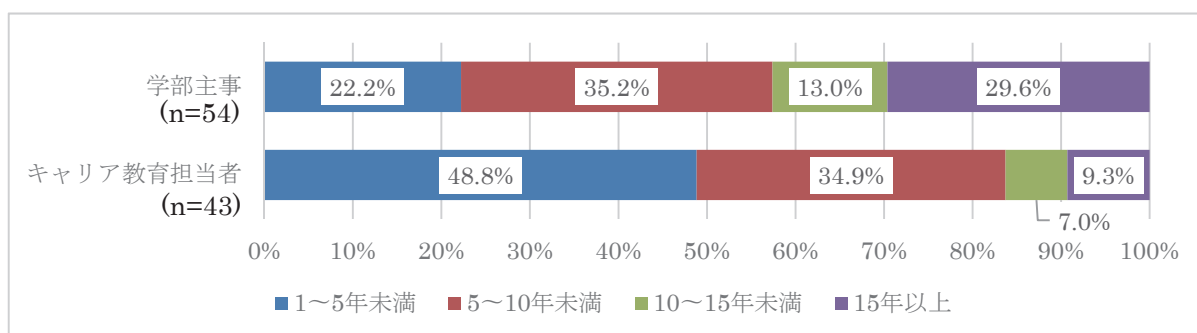


図 2-1-7-2 回答者の小学部の担当経験年数 (%)

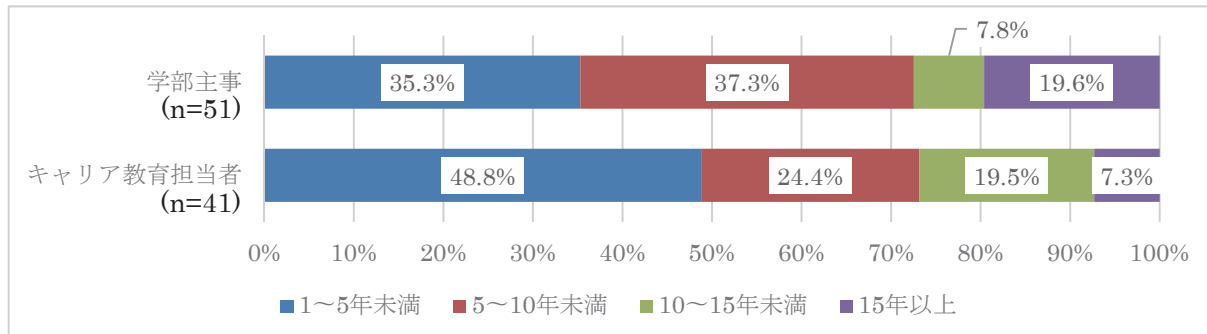


図 2-1-7-3 回答者の中学部の担当経験年数 (%)

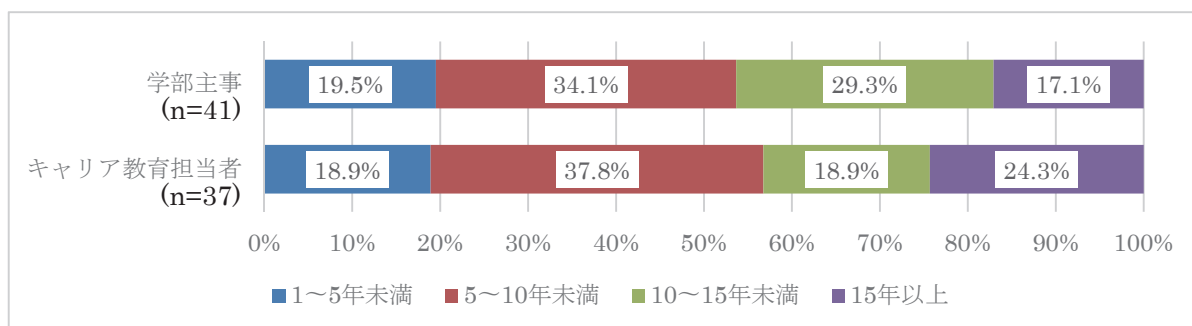


図 2-1-7-4 回答者の高等部の担当経験年数 (%)

2 指導の実際

(1) キャリア教育の指導場面

キャリア教育の指導場面について質問した結果、学部主事から 705 件、キャリア教育担当者から 566 件の回答が得られた。

学部主事、キャリア教育担当者共に、自立活動と回答した割合が 20%以上と多く、教科指導、総合的な学習の時間、特別活動においても多く、様々な指導場面でキャリア教育を行っていた（図 2-2-1）。

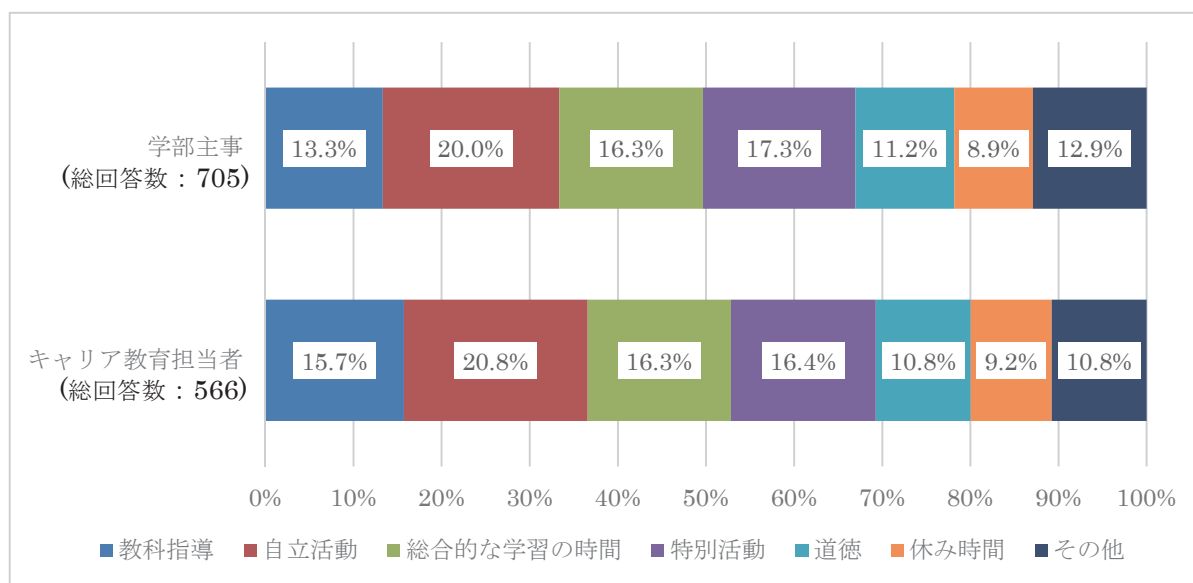


図 2-2-1 キャリア教育の指導場面（複数回答：％）

(2) キャリア教育に関わる指導

キャリア教育に関わる指導について質問した結果、個別指導の場合、学部主事から 183 件、キャリア教育担当者から 146 件の回答が得られた。学部主事では「行っている」と回答した割合が 86.3% (158 件)、キャリア教育担当者では「行っている」と回答した割合が 89.7% (131 件) であった (図 2-2-2-1)。

同様に、集団指導の場合、学部主事から 189 件、キャリア教育担当者から 147 件の回答が得られた。学部主事では「行っている」と回答した割合が 98.9% (187 件)、キャリア教育担当者では「行っている」と回答した割合が 99.3% (146 件) であった (図 2-2-2-2)。

学部主事、キャリア教育担当者共に、キャリア教育に関わる指導を行っている割合が高く、集団指導では、ほとんどの学校で行われ、個別指導でも 86%以上と高い割合で行っていた。

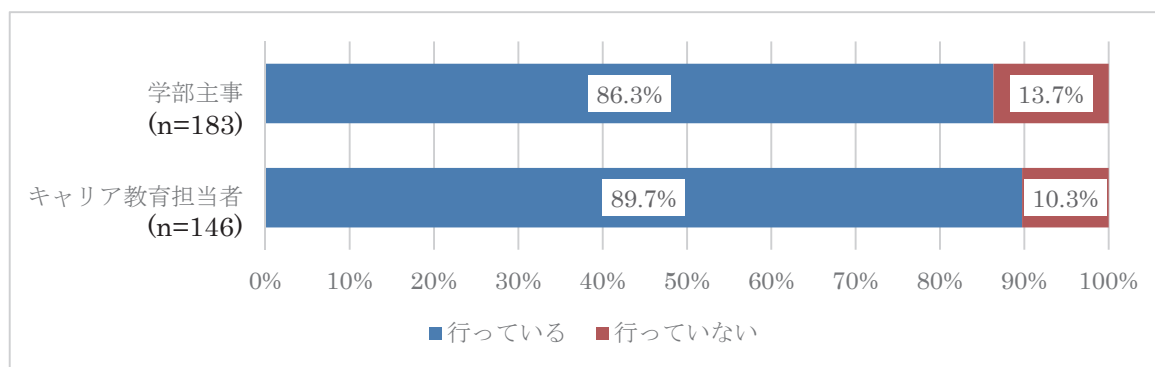


図 2-2-2-1 キャリア教育に関わる指導 (個別指導) (%)

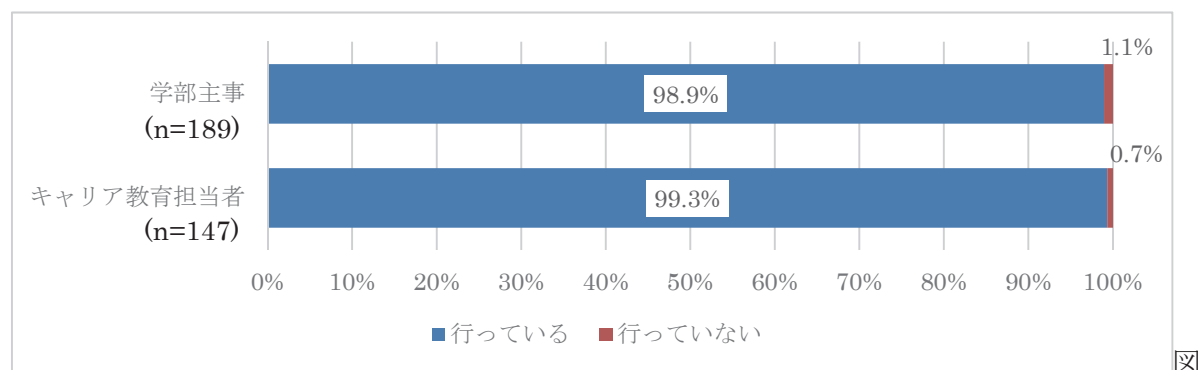


図 2-2-2-2 キャリア教育に関わる指導 (集団指導) (%)

(3) キャリア教育を実施する際に参考になっている資料

キャリア教育を実施する際に参考になっている資料を質問した結果、学部主事から 235 件、キャリア教育担当者から 186 件の回答があった。

学部主事、キャリア教育担当者共に、「自主制作教材」、「公共機関、企業等による刊行物」の割合が 30%以上と多かった。「市販のテキスト」を参考になっている割合は、学部主事 13.2% (31 件)、キャリア教育担当者 14.0% (26 件) であった (図 2-2-3)。

「自主制作教材」の割合が多く、幼児児童生徒の実態に合わせた資料が活用されていた。

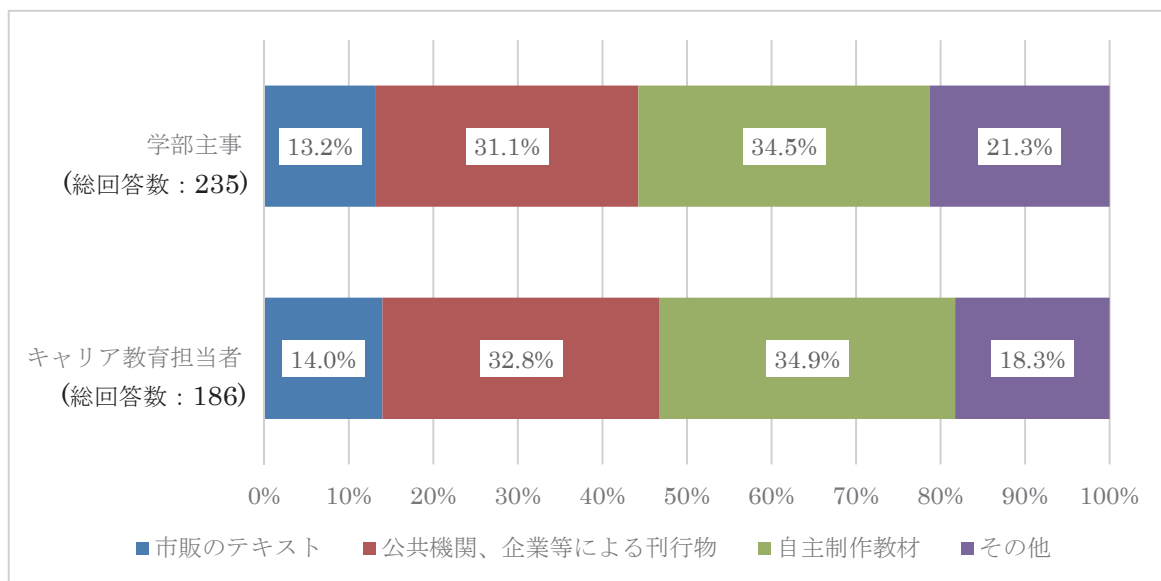


図 2-2-3 キャリア教育を実施する際に参考になっている資料 (複数回答: %)

（４）個別の指導計画（個別の教育支援計画を含む）の活用

①個別の指導計画（個別の教育支援計画を含む）を活用している担当者

個別の指導計画を活用している担当者について質問した結果、学部主事から 210 件、キャリア教育担当者から 163 件の回答があった。

学部主事、キャリア教育担当者共に、学級担任、学部の全職員に分かれた回答であった（図 2-2-4-1）。個別の指導計画（個別の教育支援計画を含む）は、学級担任、学部の全教員どちらにも活用されていた。

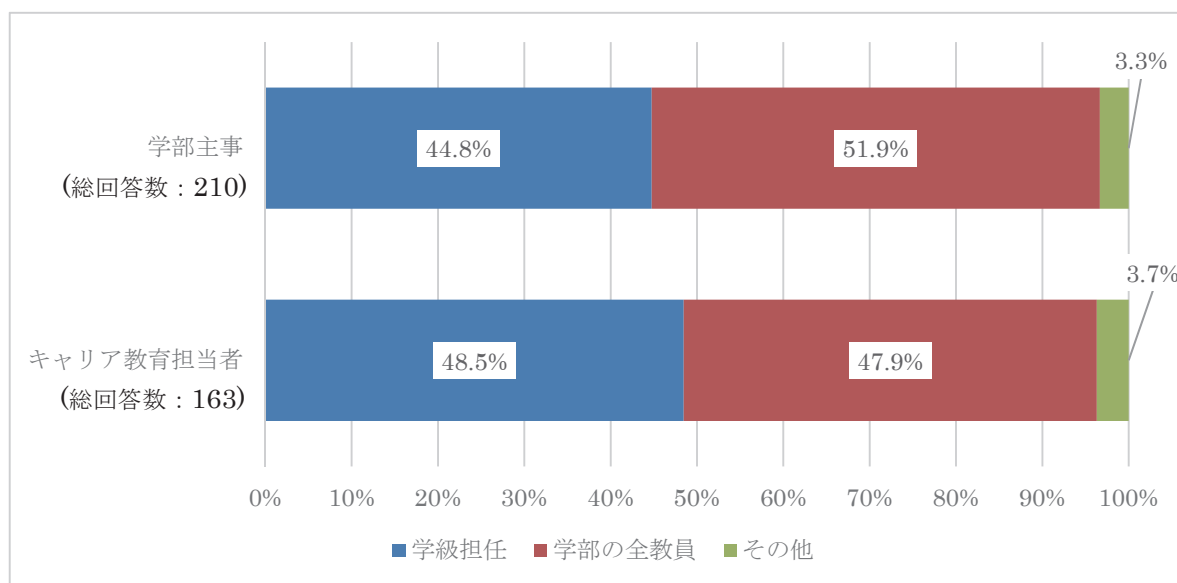


図 2-2-4-1 個別の指導計画（個別の教育支援計画を含む）を活用している担当者
（複数回答：％）

②個別の指導計画（個別の教育支援計画を含む）の活用の有無

個別の指導計画（個別の教育支援計画を含む）の活用の有無を質問した結果、学部主事から 146 件、キャリア教育担当者から 112 件の回答があった。

学部主事、キャリア教育担当者共に、活用していると回答した割合が 84%以上と多かった（図 2-2-4-2）。

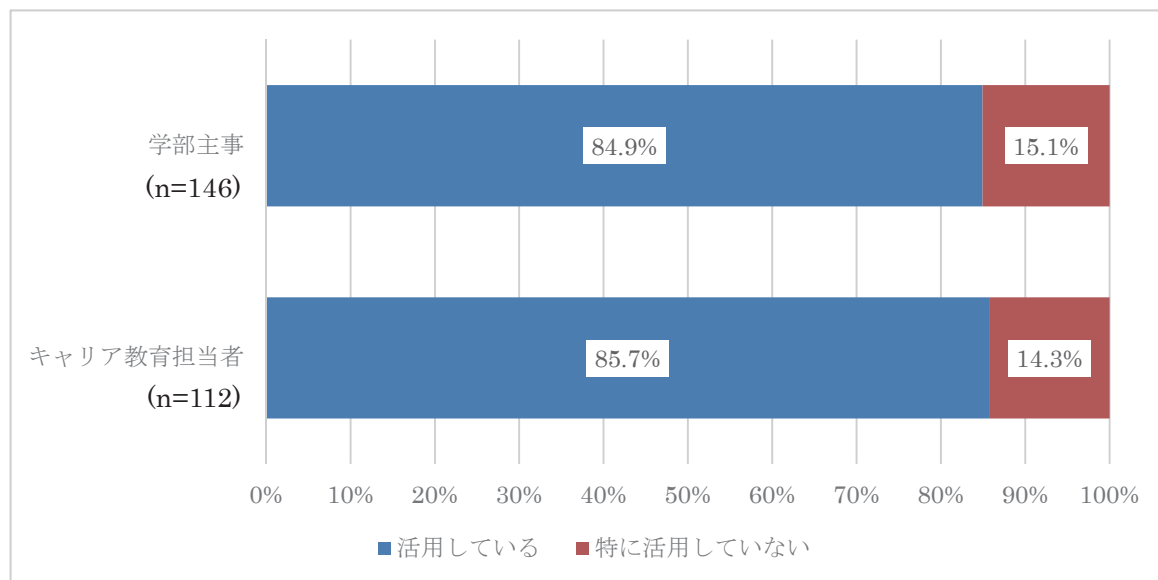


図 2-2-4-2 個別の指導計画（個別の教育支援計画を含む）の活用の有無（%）

(5) キャリア教育の推進・充実のために学部で課題であると思われるもの

キャリア教育の推進・充実のために学部で課題であると思われるものを3つ以内で選択を求めた結果、学部主事から533件、キャリア教育担当者から392件の回答があった。

学部主事では、「早期からの系統的な指導」19.9%（106件）、「キャリア教育に関する情報の十分な保有」18.2%（97件）、「家庭の理解や協力」18.0%（96件）が上位を占めた。

キャリア教育担当者でも、「早期からの系統的な指導」21.7%（85件）、「家庭の理解や協力」20.7%（81件）、「キャリア教育に関する情報の十分な保有」16.3%（64件）が上位を占めた（図2-2-5）。

学部主事、キャリア教育担当者共に、「早期からの系統的な指導」、「家庭の理解や協力」を課題として多い割合を示し、早期からの系統的な指導は、家庭の理解や協力が必要であり、家庭との連携に関する課題が示された。

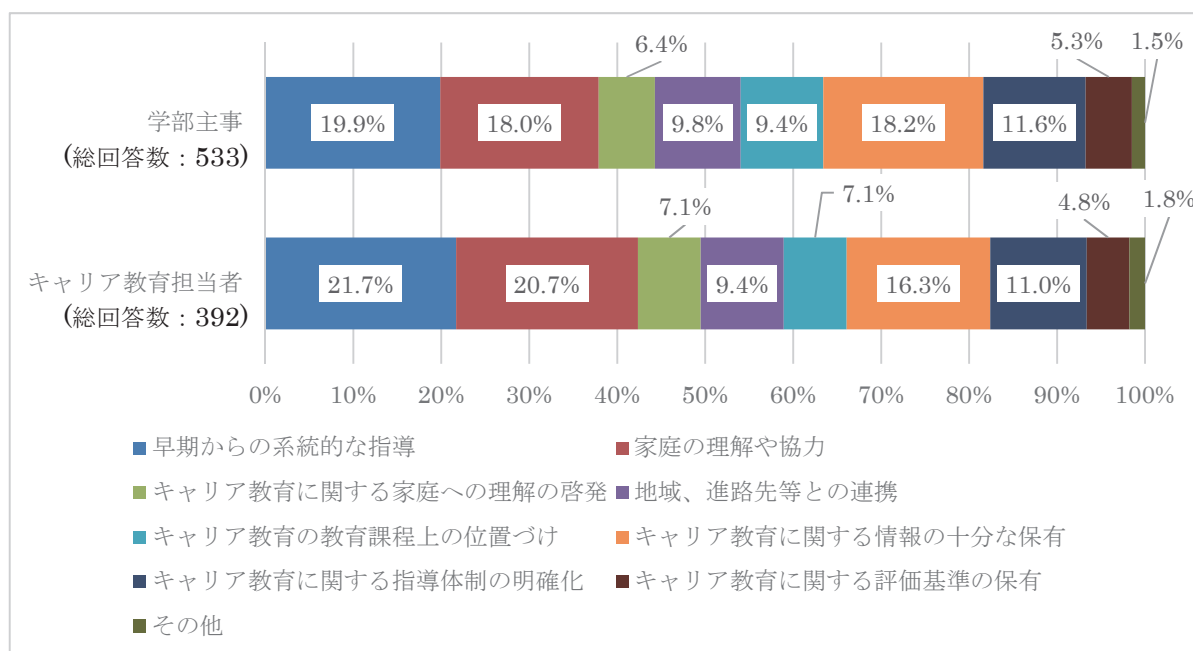


図2-2-5 キャリア教育の推進・充実のために学部で課題と思われること
(3つ以内で選択: %)

（６）キャリア教育の指導内容

①特に重視して取り組んでいる指導内容

特に重視して取り組んでいる指導内容を３つ以内で選択を求めた結果、学部主事から 591 件、キャリア教育担当者から 451 件の回答が得られた。

学部主事では、「基本的マナー（挨拶、身だしなみ等）」25.9%（153 件）、「コミュニケーション意欲」22.5%（133 件）、「他者への配慮、思いやり」11.3%（67 件）が上位を占めた。

キャリア教育担当者でも同様に、「基本的マナー（挨拶、身だしなみ等）」26.2%（118 件）、「コミュニケーション意欲」21.3%（96 件）、「他者への配慮、思いやり」11.3%（51 件）が上位を占めた（図 2-2-6）。

学部主事、キャリア教育担当者共に、「基本的マナー（挨拶、身だしなみ等）」、「コミュニケーション意欲」、「他者への配慮、思いやり」を重視していた。

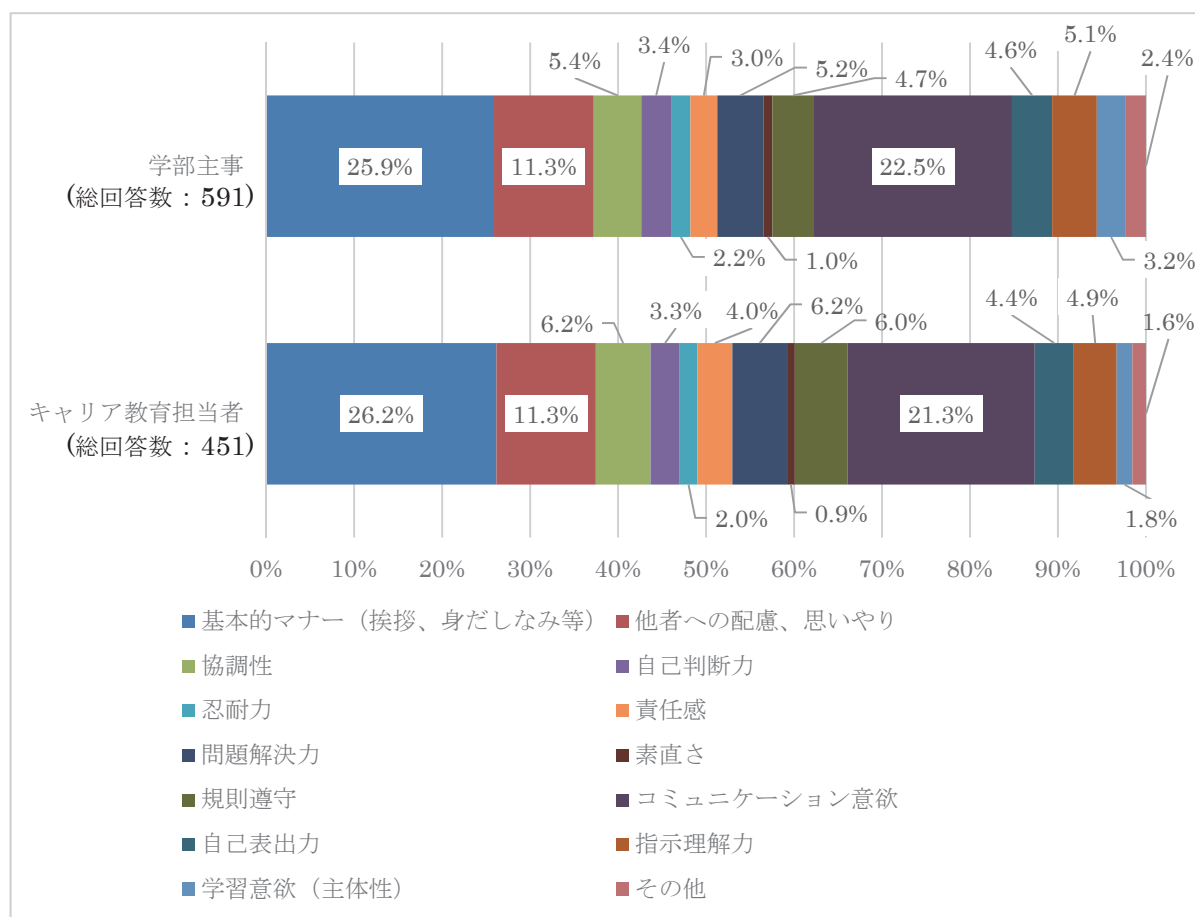


図 2-2-6 特に重視して取り組んでいる指導内容（３つ以内で選択：％）

②今後考慮する必要があると思われる指導内容

今後考慮する必要があると思われるキャリア教育の指導内容を3つ以内で選択を求めた結果、学部主事から552件、キャリア教育担当者から419件の回答が得られた。

学部主事では、「コミュニケーション意欲」14.9%（82件）、「問題解決力」12.3%（68件）、「基本的マナー（挨拶、身だしなみ等）」10.1%（56件）、「他者への配慮、思いやり」10.1%（56件）が上位を占めた。

キャリア教育担当者では、「他者への配慮、思いやり」11.5%（48件）、「コミュニケーション意欲」11.2%（47件）、「問題解決力」10.7%（45件）が上位を占めた（図2-2-7）。

「①特に重視して取り組んでいる指導内容」と同様の、「基本的マナー（挨拶、身だしなみ等）」、「コミュニケーション意欲」、「他者への配慮、思いやり」が挙げられ、さらに、「問題解決力」が必要とされていることが示された。

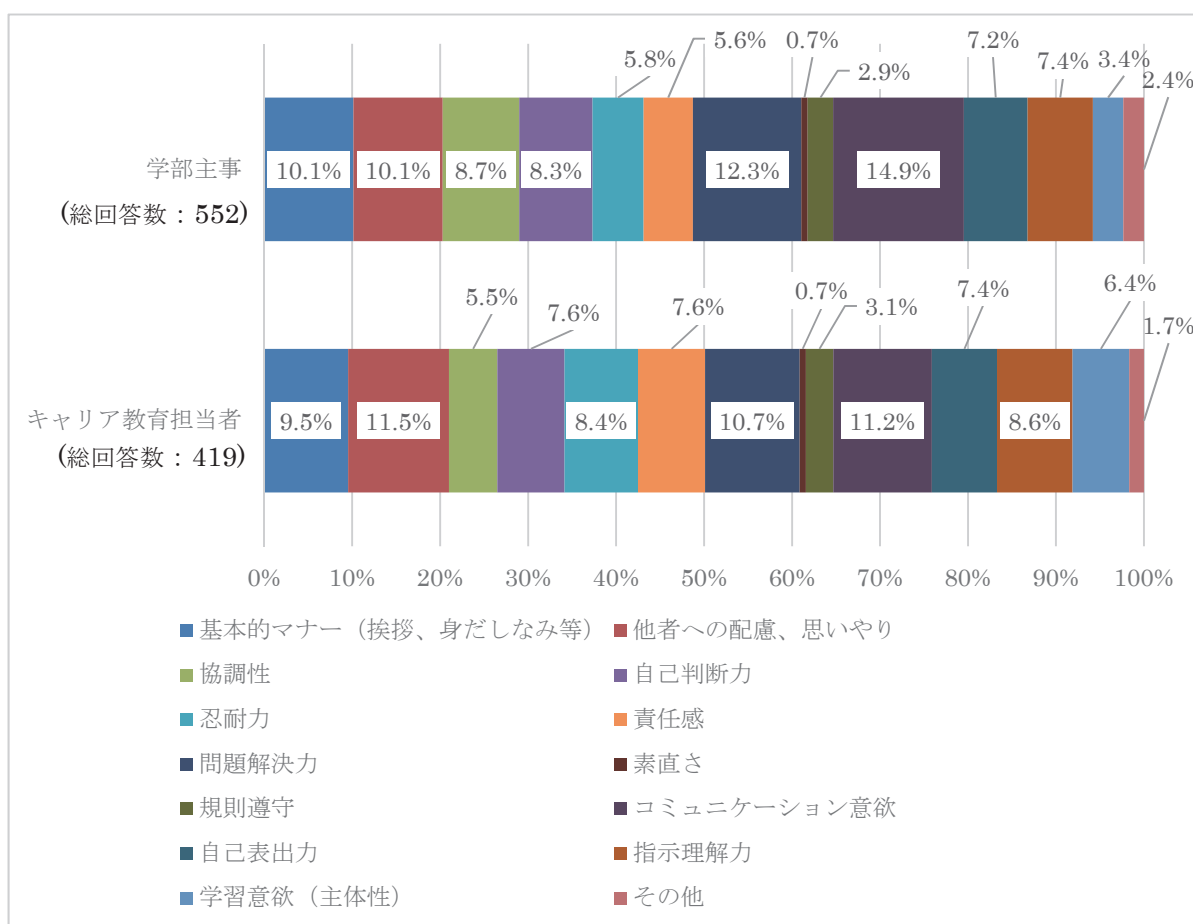


図2-2-7 今後考慮する必要があると思われる指導内容（3つ以内で選択：％）

3 学校卒業後の進路

①高等部に在籍している生徒が、学校卒業後、継続的に進学するために重要なこと

高等部に在籍している生徒が、学校卒業後、継続的に進学するために重要なことを質問した結果を、表 2-3-1 に示した。

学部主事、キャリア教育担当者共に、「情報保障を得られる環境がある」、「本人のパーソナリティや態度が、周囲（教員、仲間等）に理解をもって受け止められている」、「障害特性に応じた学習環境が整備されている」、「周囲（教員、仲間等）が聴覚障害を理解しようとしている」、「必要に応じて連携を行う」が多い割合を示した。

学部主事では、「卒業後、日常生活上の配慮（仲間づくり等）がなされている」が 7.0%（8 件）であったことに比して、キャリア教育担当者では、「卒業後、日常生活上の配慮（仲間づくり等）がなされている」が 3.7%（4 件）と少ない割合を示した。

学部主事、キャリア教育担当者共に、「情報保障を得られる環境がある」、「障害特性に応じた学習環境が整備されている」が多かった。なお、学習環境には、情報保障を得られる環境が含まれることも考えられる。

表 2-3-1 高等部に在籍している生徒が、学校卒業後、継続的に進学するために重要なこと（3 つ以内で選択：件・％：下線は、上位 5 件）

重要視していること	学部主事	キャリア教育担当者
卒業後も継続的に本人に対してフォローを行う	6 (5.2)	6 (5.6)
卒業後も継続的に進学先に対してフォローを行う	1 (0.9)	1 (0.9)
障害特性に応じた学習環境が整備されている	<u>16 (13.9)</u>	<u>15 (13.9)</u>
必要に応じて連携を行う	<u>8 (7.0)</u>	<u>10 (9.3)</u>
卒業後、日常生活上の配慮（仲間づくり等）がなされている	<u>8 (7.0)</u>	4 (3.7)
保護者が協力的である	6 (5.2)	4 (3.7)
障害への理解を促すための啓発や取り組みが行われている	4 (3.5)	4 (3.7)
本人のパーソナリティや態度が、周囲（教員、仲間等）に理解をもって受け止められている	<u>21 (18.3)</u>	<u>17 (15.7)</u>
周囲（教員、仲間等）が聴覚障害を理解しようとしている	<u>16 (13.9)</u>	<u>14 (13.0)</u>
障害のある仲間がいる	3 (2.6)	7 (6.5)
通学可能な場所にある	1 (0.9)	1 (0.9)
情報保障を得られる環境がある	<u>23 (20.0)</u>	<u>23 (21.3)</u>
福祉情報を適切に得られる環境がある	0 (0)	1 (0.9)
カウンセリングを受けられる環境がある	1 (0.9)	1 (0.9)
その他	1 (0.9)	0 (0)

②高等部に在籍している生徒が、学校卒業後、継続的に就労するために重要なこと

高等部に在籍している生徒が、学校卒業後、継続的に就労するために重要なことを質問した結果を、表 2-3-2 に示した。

学部主事、キャリア教育担当者共に、「本人のパーソナリティや態度が、周囲（上司、仲間等）に理解をもって受け止められている」、「周囲（上司、仲間等）が聴覚障害を理解しようとしている」、「卒業後も継続的に本人に対してフォローを行う」、「必要に応じて連携を行う」が多い割合を示した。

学部主事では、「卒業後も継続的に就労先に対してフォローを行う」が 5.2%（6 件）であることに比して、キャリア教育担当者では、「卒業後も継続的に就労先に対してフォローを行う」が 10.9%（12 件）と多い割合を示した。

一方、学部主事では、「卒業後、日常生活上の配慮（仲間づくり等）がなされている」が 9.6%（11 件）であることに比して、キャリア教育担当者では、「卒業後、日常生活上の配慮（仲間づくり等）がなされている」が 3.6%（4 件）と少ない割合を示した。

進学するために重要なことでは、「情報保障を得られる環境がある」、「障害特性に応じた学習環境が整備されている」が多かったが、就労するために重要なことでは少なく、逆に、就労するために重要なことでは、「卒業後も継続的に就労先に対してフォローを行う」、「保護者が協力的である」が多く、進学と就労では重要なことについて視点の違いが見られた。

表 2-3-2 高等部に在籍している生徒が、学校卒業後、継続的に就労するために
重要なこと（3つ以内で選択：件・％：下線は、上位5件）

重要視していること	学部主事	キャリア教育担当者
卒業後も継続的に本人に対してフォローを行う	<u>10(8.7)</u>	<u>12(10.9)</u>
卒業後も継続的に就労先に対してフォローを行う	6(5.2)	<u>12(10.9)</u>
障害特性に応じた業務（作業）環境が整備されている	9(7.8)	8(7.3)
必要に応じて連携を行う	<u>10(8.7)</u>	<u>12(10.9)</u>
卒業後、日常生活上の配慮（仲間づくり等）がなされている	<u>11(9.6)</u>	4(3.6)
保護者が協力的である	<u>12(10.4)</u>	11(10.0)
障害への理解を促すための啓発や取り組みが行われている	2(1.7)	2(1.8)
本人のパーソナリティや態度が、周囲（教員、仲間等）に理解をもって受け止められている	<u>21(18.3)</u>	<u>25(22.7)</u>
周囲（上司、仲間等）が聴覚障害を理解しようとしている	<u>16(13.9)</u>	<u>12(10.9)</u>
障害のある仲間がいる	7(6.1)	6(5.5)
通勤可能な場所にある	1(0.9)	1(0.9)
情報保障を得られる環境がある	9(7.8)	3(2.7)
福祉情報を適切に得られる	1(0.9)	0(0)
カウンセリングを受けられる環境がある	0(0)	2(1.8)
その他	0(0)	0(0)

4 キャリア教育に関わる指導内容の評価方法

キャリア教育に関わる指導内容の評価方法について質問した結果、学部主事では、「学部会等で話題にしている」43.5%（107件）、「個別の指導計画に反映させている」40.2%（99件）であった。

キャリア教育担当者では、「学部会等で話題にしている」41.1%（78件）、「個別の指導計画に反映させている」39.5%（75件）であった（図2-4）。

学部主事、キャリア教育担当者共に、キャリア教育に関わる指導内容の評価方法は、「個別の指導計画に反映させている」、「学部会等で話題にしている」がほぼ同数であった。その他の回答として、「職場体験先からの評価」、「担当分掌での評価」、「アンケート」などが出された。

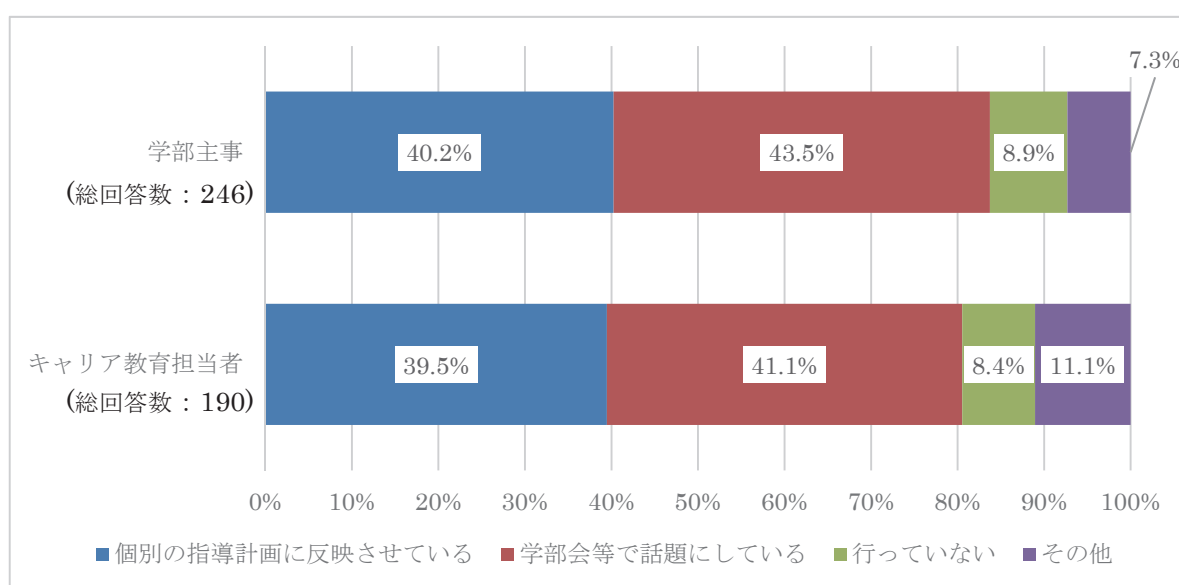


図2-4 キャリア教育に関わる指導内容の評価方法（複数回答：％）

第3章 連携している関係諸機関と卒業生等との交流

(1) 連携している関係機関

総回答数 641 件の内、学校として連携している機関としては、医療機関 144 件(22.5%)、福祉機関 111 件(17.3%)の順で多かった。

幼稚部で最も多く連携している機関は、医療機関 52 件(30.8%)、小学部でも医療機関 40 件(23.1%)、中学部では中学校 35 件(23.8%)、高等部では、労働機関 34 件(22.4%)であった(表 3-1)。

表 3-1 連携している関係諸機関 (複数回答：件・%)

	総回答数	A	B	C	D	E
総回答数	641	111(17.3)	96(15.0)	144(22.5)	52(8.1)	57(8.9)
幼稚部	169	31(18.3)	21(12.4)	52(30.8)	1(0.6)	41(24.3)
小学部	173	27(15.6)	24(13.9)	40(23.1)	5(2.9)	11(6.4)
中学部	147	22(15.0)	23(15.6)	30(20.4)	12(8.2)	5(3.4)
高等部	152	31(20.4)	28(18.4)	22(14.5)	34(22.4)	-

	総回答数	F	G	H	I
総回答数	641	68(10.6)	45(7.0)	22(3.4)	46(7.2)
幼稚部	169	9(5.3)	-	-	14(8.3)
小学部	173	50(28.9)	4(2.3)	-	12(6.9)
中学部	147	5(3.4)	35(23.8)	5(3.4)	10(6.8)
高等部	152	4(2.6)	6(3.9)	17(11.2)	10(6.6)

(A：福祉機関、B：行政機関、C：医療機関、D：労働機関、E：幼稚園・保育所、
F：小学校、G：中学校、H：高等学校、I：その他の教育機関)

(2) 卒業生との交流

有効回答数 234 件の内、卒業生との交流を行っているとは回答したのは、149 件 (63.7%) であった。幼稚部以外は、57%～86%の割合で、交流を行っていた (表 3-2)。

表 3-2 卒業生との交流 (件・%)

	有効回答数(N)	行っている	行っていない
有効回答数(N)	234	149 (63.7)	85 (36.3)
幼稚部	61	21 (34.4)	40 (65.6)
小学部	63	36 (57.1)	27 (42.9)
中学部	60	49 (81.7)	11 (18.3)
高等部	50	43 (86.0)	7 (14.0)

(3) 卒業生の保護者との交流

有効回答数 221 件の内、卒業生の保護者との交流を行っていないとは回答したのは、142 件 (64.3%) であった。中学部が 43 件 (78.2%) 行っていないと特に多く回答したものの、他の学部も半数以上が行っていないと回答した (表 3-3)。

表 3-3 卒業生の保護者との交流 (件・%)

	有効回答数(N)	行っている	行っていない
有効回答数(N)	221	79 (35.7)	142 (64.3)
幼稚部	60	28 (46.7)	32 (53.3)
小学部	60	22 (36.7)	38 (63.3)
中学部	55	12 (21.8)	43 (78.2)
高等部	46	17 (37.0)	29 (63.0)

第4章 調査資料

1 学部主事

(1) 回答者

1) 回答者の担当学部

表 4-1-1-1 回答者（学部主事）の担当学部（件・％）

	有効回答数(N)	幼稚部	小学部	中学部	高等部
有効回答数(N)	202	56 (27.7)	54 (26.7)	51 (25.2)	41 (20.3)

2) 回答者の担当

表 4-1-1-2 学部主事の担当（複数回答：件・％）

	総回答数	学級担任	副担任	学年所属	学部所属	その他
総回答数	169	27(16.0)	8(4.7)	4(2.4)	118(69.8)	12(7.1)
幼稚部	46	12(26.1)	3(6.5)	0 (0)	26(56.5)	5(10.9)
小学部	44	7(15.9)	2(4.5)	1(2.3)	32(72.7)	2(4.5)
中学部	45	5(11.1)	1(2.2)	2(4.4)	33(73.3)	4(8.9)
高等部	34	3(8.8)	2(5.9)	1(2.9)	27(79.4)	1(2.9)

3) 回答者の教職経験年数

表 4-1-1-3 学部主事の教職経験年数（件・％）

	有効回答数(N)	1～5 年未満	5～10 年未満	10～15 年未満	15 年以上
有効回答(N)	202	3(1.5)	2(1.0)	4(2.0)	193(95.5)
幼稚部	56	1(1.8)	1(1.8)	1(1.8)	53(94.6)
小学部	54	0(0)	0(0)	0(0)	54(100)
中学部	51	1(2.0)	1(2.0)	1(2.0)	48(94.1)
高等部	41	1(2.4)	0(0)	2(4.9)	38(92.7)

4) 回答者の特別支援教育（聴覚障害）経験年数

表 4-1-1-4 学部主事の特別支援教育（聴覚障害）経験年数（件・％）

	有効回答数(N)	1～5 年未満	5～10 年未満	10～15 年未満	15 年以上
有効回答数(N)	203	35(17.2)	43(21.2)	31(15.3)	94(46.3)
幼稚部	56	6(10.7)	7(12.5)	6(10.7)	37(66.1)
小学部	55	8(14.5)	11(20.0)	8(14.5)	28(50.9)
中学部	51	11(21.6)	14(27.5)	7(13.7)	19(37.3)
高等部	41	10(24.4)	11(26.8)	10(24.4)	10(24.4)

5) 回答者の特別支援教育（聴覚障害）以外の経験の有無

表 4-1-1-5 学部主事の特別支援教育（聴覚障害）以外の経験の有無（件・％）

	有効回答数(N)	ある	ない
有効回答数(N)	201	161(80.1)	40(19.9)
幼稚部	56	38(67.9)	18(32.1)
小学部	54	44(81.5)	10(18.5)
中学部	50	46(92.0)	4(8.0)
高等部	41	33(80.5)	8(19.5)

6) 回答者の現在の勤務校在籍年数

表 4-1-1-6 学部主事の現在の勤務校在籍年数（件・％）

	有効回答数(N)	1～5 年未満	5～10 年未満	10～15 年未満	15 年以上
有効回答数(N)	202	72(35.6)	54(26.7)	32(15.8)	44(21.8)
幼稚部	56	20(35.7)	12(21.4)	6(10.7)	18(32.1)
小学部	54	19(35.2)	16(29.6)	7(13.0)	12(22.2)
中学部	51	18(35.3)	17(33.3)	7(13.7)	9(17.6)
高等部	41	15(36.6)	9(22.0)	12(29.3)	5(12.2)

7) 回答者の各学部の担当経験年数

表 4-1-1-7 学部主事の各学部の担当経験年数（件・％）

	有効回答数(N)	1～5 年未満	5～10 年未満	10～15 年未満	15 年以上
有効回答数(N)	201	52(25.9)	64(31.8)	35(17.4)	50(24.9)
幼稚部	55	14(25.5)	12(21.8)	12(21.8)	17(30.9)
小学部	54	12(22.2)	19(35.2)	7(13.0)	16(29.6)
中学部	51	18(35.3)	19(37.3)	4(7.8)	10(19.6)
高等部	41	8(19.5)	14(34.1)	12(29.3)	7(17.1)

(2) 指導の実際

1) キャリア教育の指導場面

表 4-1-2-1 学部主事回答：キャリア教育の指導場面（複数回答：件・%）

	総回答数	A	B	C	D	E	F	G
総回答数	705	94(13.3)	141(20.0)	115(16.3)	122(17.3)	79(11.2)	63(8.9)	91(12.9)
幼稚園	79	-	17(21.5)	-	-	-	11(13.9)	51(64.6)
小学部	261	40(15.3)	44(16.9)	44(16.9)	45(17.2)	42(16.1)	29(11.1)	17(6.5)
中学部	212	28(13.2)	42(19.8)	41(19.3)	40(18.9)	31(14.6)	16(7.5)	14(6.6)
高等部	153	26(17.0)	38(24.8)	30(19.6)	37(24.2)	6(3.9)	7(4.6)	9(5.9)

(A: 教科指導、B: 自立活動、C: 総合的な学習の時間、D: 特別活動、E: 道徳、F: 休み時間、G: その他)

2-1) キャリア教育に関わる指導（個別指導）

表 4-1-2-2-1 学部主事回答：実施されているキャリア教育に関わる指導（個別指導）（件・%）

	有効回答数(N)	行っている	行っていない
有効回答数(N)	183	158(86.3)	25(13.7)
幼稚園	46	39(84.8)	7(15.2)
小学部	49	38(77.6)	11(22.4)
中学部	47	45(95.7)	2(4.3)
高等部	41	36(87.8)	5(12.2)

2-2) キャリア教育に関わる指導（集団指導）

表 4-1-2-2-2 学部主事回答：実施されているキャリア教育に関わる指導（集団指導）（件・%）

	有効回答数(N)	行っている	行っていない
有効回答数(N)	189	187(98.9)	2(1.1)
幼稚園	49	48(98.0)	1(2.0)
小学部	51	50(98.0)	1(2.0)
中学部	49	49(100)	0(0)
高等部	40	40(100)	0(0)

3) キャリア教育を実施する際に参考になっている資料

表 4-1-2-3 学部主事回答：キャリア教育を実施する際に参考になっている資料

(複数回答：件・%)

	総回答数	A	B	C	D
総回答数	235	31(13.2)	73(31.1)	81(34.5)	50(21.3)
幼稚部	49	1(2.0)	13(26.5)	12(24.5)	23(46.9)
小学部	64	10(15.6)	21(32.8)	21(32.8)	12(18.8)
中学部	63	8(12.7)	16(25.4)	29(46.0)	10(15.9)
高等部	59	12(20.3)	23(39.0)	19(32.2)	5(8.5)

(A: 市販のテキスト、B: 公共機関、企業等による刊行物、C: 自主制作教材、D: その他)

4) 個別の指導計画（個別の教育支援計画を含む）の活用内容

①個別の指導計画（個別の教育支援計画を含む）を活用している担当者

表 4-1-2-4-1 学部主事回答：個別の指導計画（個別の教育支援計画を含む）を

活用している担当者

(複数回答：件・%)

	総回答数	学級担任	学部の全教員	その他
総回答数	210	94(44.8)	109(51.9)	7(3.3)
幼稚部	54	26(48.1)	27(50.0)	1(1.9)
小学部	54	23(42.6)	30(55.6)	1(1.9)
中学部	50	20(40.0)	28(56.0)	2(4.0)
高等部	52	25(48.1)	24(46.2)	3(5.8)

②個別の指導計画（個別の教育支援計画を含む）の活用の有無

表 4-1-2-4-2 学部主事回答：個別の指導計画（個別の教育支援計画を含む）の活用の

有無

(件・%)

	有効回答数(N)	活用している	特に活用していない
有効回答数(N)	146	124(84.9)	22(15.1)
幼稚部	41	34(82.9)	7(17.1)
小学部	34	28(82.4)	6(17.6)
中学部	35	28(80.0)	7(20.0)
高等部	36	34(94.4)	2(5.6)

5) キャリア教育の推進・充実のために学部で課題であると思われるもの

表 4-1-2-5 学部主事回答：キャリア教育の推進・充実のために学部で課題と
思われること (3つ以内で選択：件・%)

	総回答数	A	B	C	D	E
総回答数	533	106(19.9)	96(18.0)	34(6.4)	52(9.8)	50(9.4)
幼稚部	134	24(17.9)	36(26.9)	-	11(8.2)	12(9.0)
小学部	139	25(18.0)	28(20.1)	-	12(8.6)	15(10.8)
中学部	141	29(20.6)	13(9.2)	16(11.3)	18(12.8)	10(7.1)
高等部	119	28(23.5)	19(16.0)	18(15.1)	11(9.2)	13(10.9)

	総回答数	F	G	H	I
総回答数	533	97(18.2)	62(11.6)	28(5.3)	8(1.5)
幼稚部	134	30(22.4)	11(8.2)	8(6.0)	2(1.5)
小学部	139	32(23.0)	19(13.7)	6(4.3)	2(1.4)
中学部	141	22(15.6)	19(13.5)	11(7.8)	3(2.1)
高等部	119	13(10.9)	13(10.9)	3(2.5)	1(0.8)

(A：早期からの系統的な指導、B：家庭の理解や協力、C：キャリア教育に関する家庭への理解の啓発、D：地域、進路先等との連携、E：キャリア教育の教育課程上の位置づけ、F：キャリア教育に関する情報の十分な保有、G：キャリア教育に関する指導体制の明確化、H：キャリア教育に関する評価基準の保有、I：その他)

6) キャリア教育の指導内容

①特に重視して取り組んでいる指導内容

表 4-1-2-6-1 学部主事回答：特に重視して取り組んでいる指導内容

(3つ以内で選択：件・%)

	総回答数	A	B	C	D	E
総回答数	591	153(25.9)	67(11.3)	32(5.4)	20(3.4)	13(2.2)
幼稚園部	157	45(28.7)	28(17.8)	8(5.1)	-	4(2.5)
小学部	162	43(26.5)	20(12.3)	12(7.4)	2(1.2)	2(1.2)
中学部	155	42(27.1)	10(6.5)	8(5.2)	11(7.1)	3(1.9)
高等部	117	23(19.7)	9(7.7)	4(3.4)	7(6.0)	4(3.4)

	総回答数	F	G	H	I	J
総回答数	591	18(3.0)	31(5.2)	6(1.0)	28(4.7)	133(22.5)
幼稚園部	157	0(0)	-	-	8(5.1)	45(28.7)
小学部	162	10(6.2)	8(4.9)	2(1.2)	9(5.6)	29(17.9)
中学部	155	6(3.9)	11(7.1)	2(1.3)	5(3.2)	30(19.4)
高等部	117	2(1.7)	12(10.3)	2(1.7)	6(5.1)	29(24.8)

	総回答数	K	L	M	O
総回答数	591	27(4.6)	30(5.1)	19(3.2)	14(2.4)
幼稚園部	157	-	12(7.6)	-	7(4.5)
小学部	162	9(5.6)	4(2.5)	9(5.6)	3(1.9)
中学部	155	13(8.4)	9(5.8)	4(2.6)	1(0.6)
高等部	117	5(4.3)	5(4.3)	6(5.1)	3(2.6)

(A：基本的マナー（挨拶、身だしなみ等）、B：他者への配慮、思いやり、C：協調性、D：自己判断力、E：忍耐力（がまん等）、F：責任感、G：問題解決力、H：素直さ、I：規則遵守、J：コミュニケーション意欲、K：自己表出力、L：指示理解力、M：学習意欲（主体性）、O：その他）

②今後考慮する必要があると思われる指導内容

表 4-1-2-6-2 学部主事回答：今後考慮する必要があると思われる指導内容

(3つ以内で選択：件・%)

	総回答数	A	B	C	D	E
総回答数	552	56(10.1)	56(10.1)	48(8.7)	46(8.3)	32(5.8)
幼稚部	136	25(18.4)	25(18.4)	22(16.2)	-	12(8.8)
小学部	157	12(7.6)	11(7.0)	12(7.6)	22(14.0)	6(3.8)
中学部	143	13(9.1)	13(9.1)	6(4.2)	12(8.4)	7(4.9)
高等部	116	6(5.2)	7(6.0)	8(6.9)	12(10.3)	7(6.0)

	総回答数	F	G	H	I	J
総回答数	552	31(5.6)	68(12.3)	4(0.7)	16(2.9)	82(14.9)
幼稚部	136	5(3.7)	-	-	3(2.2)	27(19.9)
小学部	157	7(4.5)	26(16.6)	2(1.3)	4(2.5)	19(12.1)
中学部	143	7(4.9)	25(17.5)	1(0.7)	7(4.9)	20(14.0)
高等部	116	12(10.3)	17(14.7)	1(0.9)	2(1.7)	16(13.8)

	総回答数	K	L	M	O
総回答数	552	40(7.2)	41(7.4)	19(3.4)	13(2.4)
幼稚部	136	-	10(7.4)	-	7(5.1)
小学部	157	12(7.6)	11(7.0)	10(6.4)	3(1.9)
中学部	143	15(10.5)	11(7.7)	4(2.8)	2(1.4)
高等部	116	13(11.2)	9(7.8)	5(4.3)	1(0.9)

(A：基本的マナー（挨拶、身だしなみ等）、B：他者への配慮、思いやり、C：協調性、D：自己判断力、E：忍耐力（がまん等）、F：責任感、G：問題解決力、H：素直さ、I：規則遵守、J：コミュニケーション意欲、K：自己表出力、L：指示理解力、M：学習意欲（主体性）、O：その他）

7) キャリア教育に関わる指導内容の評価方法

表 4-1-2-7 学部主事回答：キャリア教育に関わる指導内容の評価方法

(複数回答：件・%)

	総回答数	A	B	C	D
総回答数	246	99(40.2)	107(43.5)	22(8.9)	18(7.3)
幼稚部	65	27(41.5)	26(40.0)	6(9.2)	6(9.2)
小学部	62	26(41.9)	24(38.7)	9(14.5)	3(4.8)
中学部	66	22(33.3)	35(53.0)	4(6.1)	5(7.6)
高等部	53	24(45.3)	22(41.5)	3(5.7)	4(7.5)

(A：個別の指導計画に反映させている、B：学部会等で話題にしている、C：行っていない、D：その他)

2 キャリア教育担当者

(1) 回答者

1) 回答者の担当学部

表 4-2-1-1 回答者（キャリア教育担当者）の担当学部（件・％）

	有効回答数(N)	幼稚園	小学部	中学部	高等部
有効回答数(N)	152	32(21.1)	42(27.6)	41(27.0)	37(24.3)

2) 回答者の担当

表 4-2-1-2 キャリア教育担当者の担当（複数回答：件・％）

	総回答数	学級担任	副担任	学年所属	学部所属	その他
総回答数	156	68(43.6)	33(21.2)	11(7.1)	31(19.9)	13(8.3)
幼稚園	34	24(70.6)	3(8.8)	0(0)	2(5.9)	5(14.7)
小学部	43	20(46.5)	10(23.3)	2(4.7)	7(16.3)	4(9.3)
中学部	44	23(52.3)	8(18.2)	4(9.1)	8(18.2)	1(2.3)
高等部	35	1(2.9)	12(34.3)	5(14.3)	14(40.0)	3(8.6)

3) 回答者の教職経験年数

表 4-2-1-3 キャリア教育担当者の教職経験年数（件・％）

	有効回答数(N)	1～5 年未満	5～10 年未満	10～15 年未満	15 年以上
有効回答数(N)	152	13(8.6)	24(15.8)	23(15.1)	92(60.5)
幼稚園	32	1(3.1)	6(18.8)	6(18.8)	19(59.4)
小学部	42	8(19.0)	8(19.0)	6(14.3)	20(47.6)
中学部	41	4(9.8)	5(12.2)	9(22.0)	23(56.1)
高等部	37	0(0)	5(13.5)	2(5.4)	30(81.1)

4) 回答者の特別支援教育（聴覚障害）経験年数

表 4-2-1-4 キャリア教育担当者の特別支援教育（聴覚障害）経験年数（件・％）

	有効回答数(N)	1～5 年未満	5～10 年未満	10～15 年未満	15 年以上
有効回答数(N)	152	54(35.5)	35(23.0)	32(21.1)	31(20.4)
幼稚園	32	13(40.6)	7(21.9)	5(15.6)	7(21.9)
小学部	42	15(35.7)	14(33.3)	9(21.4)	4(9.5)
中学部	41	16(39.0)	9(22.0)	8(19.5)	8(19.5)
高等部	37	10(27.0)	5(13.5)	10(27.0)	12(32.4)

5) 回答者の特別支援教育（聴覚障害）以外の経験の有無

表 4-2-1-5 キャリア教育担当者の特別支援教育（聴覚障害）以外の経験の有無
(件・%)

	有効回答数(N)	ある	ない
有効回答数(N)	153	108(70.6)	45(29.4)
幼稚園	32	22(68.8)	10(31.3)
小学部	43	30(69.8)	13(30.2)
中学部	41	28(68.3)	13(31.7)
高等部	37	28(75.7)	9(24.3)

6) 回答者の現在の勤務校在籍年数

表 4-2-1-6 キャリア教育担当者の現在の勤務校在籍年数 (件・%)

	有効回答数(N)	1～5 年未満	5～10 年未満	10～15 年未満	15 年以上
有効回答数(N)	153	77(50.3)	41(26.8)	25(16.3)	10(6.5)
幼稚園	32	16(50.0)	7(21.9)	5(15.6)	4(12.5)
小学部	43	23(53.5)	14(32.6)	6(14.0)	0(0)
中学部	41	23(56.1)	11(26.8)	4(9.8)	3(7.3)
高等部	37	15(40.5)	9(24.3)	10(27.0)	3(8.1)

7) 回答者の各学部の担当経験年数

表 4-2-1-7 キャリア教育担当者の各学部の担当経験年数 (件・%)

	有効回答数(N)	1～5 年未満	5～10 年未満	10～15 年未満	15 年以上
有効回答数(N)	150	63(42.0)	47(31.3)	21(14.0)	19(12.7)
幼稚園	29	15(51.7)	8(27.6)	3(10.3)	3(10.3)
小学部	43	21(48.8)	15(34.9)	3(7.0)	4(9.3)
中学部	41	20(48.8)	10(24.4)	8(19.5)	3(7.3)
高等部	37	7(18.9)	14(37.8)	7(18.9)	9(24.3)

(2) 指導の実際

1) キャリア教育の指導場面

表 4-2-2-1 キャリア教育担当者回答：キャリア教育の指導場面（複数回答：件・％）

	総回答数	A	B	C	D	E	F	G
総回答数	566	89(15.7)	118(20.8)	92(16.3)	93(16.4)	61(10.8)	52(9.2)	61(10.8)
幼稚園	48	-	11(22.9)	-	-	-	7(14.6)	30(62.5)
小学部	184	31(16.8)	34(18.5)	29(15.8)	32(17.4)	29(15.8)	20(10.9)	9(4.9)
中学部	185	27(14.6)	38(20.5)	35(18.9)	33(17.8)	28(15.1)	15(8.1)	9(4.9)
高等部	149	31(20.8)	35(23.5)	28(18.8)	28(18.8)	4(2.7)	10(6.7)	13(8.7)

(A: 教科指導、B: 自立活動、C: 総合的な学習の時間、D: 特別活動、E: 道徳、F: 休み時間、G:その他)

2-1) キャリア教育に関わる指導内容（個別指導）

表 4-2-2-2-1 キャリア教育担当者回答：実施されているキャリア教育に関わる指導（個別指導）（件・％）

	有効回答数(N)	行っている	行っていない
有効回答数(N)	146	131(89.7)	15(10.3)
幼稚園	30	27(90.0)	3(10.0)
小学部	38	35(92.1)	3(7.9)
中学部	41	36(87.8)	5(12.2)
高等部	37	33(89.2)	4(10.8)

2-2) キャリア教育に関わる指導内容（集団指導）

表 4-2-2-2-2 キャリア教育担当者回答：実施されているキャリア教育に関わる指導内容（集団指導）（件・％）

	有効回答数(N)	行っている	行っていない
有効回答数(N)	147	146(99.3)	1(0.7)
幼稚園	29	29(100)	0(0)
小学部	40	40(100)	0(0)
中学部	41	41(100)	0(0)
高等部	37	36(97.3)	1(2.7)

3) キャリア教育を実施する際に参考になっている資料

表 4-2-2-3 キャリア教育担当者回答:キャリア教育を実施する際に参考になっている資料
(複数回答:件・%)

	総回答数	A	B	C	D
総回答数	186	26(14.0)	61(32.8)	65(34.9)	34(18.3)
幼稚部	32	3(9.4)	10(31.3)	10(31.3)	9(28.1)
小学部	42	1(2.4)	15(35.7)	18(42.9)	8(19.0)
中学部	55	10(18.2)	15(27.3)	22(40.0)	8(14.5)
高等部	57	12(21.1)	21(36.8)	15(26.3)	9(15.8)

(A: 市販のテキスト、B:公共機関、企業等による刊行物、C: 自主制作教材、D: その他)

4) 個別の指導計画(個別の教育支援計画を含む)の活用内容

①個別の指導計画(個別の教育支援計画を含む)を活用している担当者

表 4-2-2-4-1 キャリア教育担当者:個別の指導計画(個別の教育支援計画を含む)を活用している担当者
(複数回答:件・%)

	総回答数	学級担任	学部の全教員	その他
総回答数	163	79(48.5)	78(47.9)	6(3.7)
幼稚部	33	17(51.5)	15(45.5)	1(3.0)
小学部	45	21(46.7)	20(44.4)	4(8.9)
中学部	45	21(46.7)	23(51.1)	1(2.2)
高等部	40	20(50.0)	20(50.0)	0(0)

②個別の指導計画(個別の教育支援計画を含む)の活用の有無

表 4-2-2-4-2 キャリア教育担当者回答:個別の指導計画(個別の教育支援計画を含む)の活用の有無
(件・%)

	有効回答数(N)	活用している	特に活用していない
有効回答数(N)	112	96(85.7)	16(14.3)
幼稚部	22	19(86.4)	3(13.6)
小学部	26	21(80.8)	5(19.2)
中学部	32	28(87.5)	4(12.5)
高等部	32	28(87.5)	4(12.5)

5) キャリア教育の推進・充実のために学部で課題であると思われるもの

表 4-2-2-5 キャリア教育担当者回答：キャリア教育の推進・充実のために学部で
課題と思われること (3つ以内で選択：件・%)

	総回答数	A	B	C	D	E
総回答数	392	85(21.7)	81(20.7)	28(7.1)	37(9.4)	28(7.1)
幼稚部	76	16(21.1)	27(35.5)	-	7(9.2)	6(7.9)
小学部	101	20(19.8)	25(24.8)	-	8(7.9)	6(5.9)
中学部	112	20(17.9)	11(9.8)	14(12.5)	9(8.0)	7(6.3)
高等部	103	29(28.2)	18(17.5)	14(13.6)	13(12.6)	9(8.7)

	総回答数	F	G	H	I
総回答数	392	64(16.3)	43(11.0)	19(4.8)	7(1.8)
幼稚部	76	12(15.8)	5(6.6)	3(3.9)	0(0)
小学部	101	21(20.8)	14(13.9)	5(5.0)	2(2.0)
中学部	112	22(19.6)	16(14.3)	9(8.0)	4(3.6)
高等部	103	9(8.7)	8(7.8)	2(1.9)	1(1.0)

(A：早期からの系統的な指導、B：家庭の理解や協力、C：キャリア教育に関する家庭への理解の啓発、D：地域、進路先等との連携、E：キャリア教育の教育課程上の位置づけ、F：キャリア教育に関する情報の十分な保有、G：キャリア教育に関する指導体制の明確化、H：キャリア教育に関する評価基準の保有、I：その他)

6) キャリア教育の指導内容

①特に重視して取り組んでいる指導内容

表 4-2-2-6-1 キャリア教育担当者回答：特に重視して取り組んでいる指導内容

(3つ以内で選択：件・%)

	総回答数	A	B	C	D	E
総回答数	451	118(26.2)	51(11.3)	28(6.2)	15(3.3)	9(2.0)
幼稚園	93	26(28.0)	14(15.1)	9(9.7)	-	1(1.1)
小学部	124	33(26.6)	23(18.5)	6(4.8)	3(2.4)	1(0.8)
中学部	130	32(24.6)	9(6.9)	6(4.6)	6(4.6)	3(2.3)
高等部	104	27(26.0)	5(4.8)	7(6.7)	6(5.8)	4(3.8)

	総回答数	F	G	H	I	J
総回答数	451	18(4.0)	28(6.2)	4(0.9)	27(6.0)	96(21.3)
幼稚園	93	0(0.0)	-	-	3(3.2)	28(30.1)
小学部	124	4(3.2)	8(6.5)	1(0.8)	11(8.9)	17(13.7)
中学部	130	12(9.2)	11(8.5)	1(0.8)	10(7.7)	24(18.5)
高等部	104	2(1.9)	9(8.7)	2(1.9)	3(2.9)	27(26.0)

	総回答数	K	L	M	O
総回答数	451	20(4.4)	22(4.9)	8(1.8)	7(1.6)
幼稚園	93	-	11(11.8)	-	1(1.1)
小学部	124	7(5.6)	3(2.4)	5(4.0)	2(1.6)
中学部	130	7(5.4)	5(3.8)	2(1.5)	2(1.5)
高等部	104	6(5.8)	3(2.9)	1(1.0)	2(1.9)

(A：基本的マナー（挨拶、身だしなみ等）、B：他者への配慮、思いやり、C：協調性、
D：自己判断力、E：忍耐力（がまん等）、F：責任感、G：問題解決力、H：素直さ、
I：規則遵守、J：コミュニケーション意欲、K：自己表出力、L：指示理解力、
M：学習意欲（主体性）、O：その他）

②今後考慮する必要があると思われる指導内容

表 4-2-2-6-2 キャリア教育担当者回答：今後考慮する必要があると思われる指導内容
(3つ以内で選択：件・%)

	総回答数	A	B	C	D	E
総回答数	419	40(9.5)	48(11.5)	23(5.5)	32(7.6)	35(8.4)
幼稚部	82	13(15.9)	17(20.7)	13(15.9)	-	9(11.0)
小学部	122	11(9.0)	7(5.7)	4(3.3)	10(8.2)	10(8.2)
中学部	111	10(9.0)	12(10.8)	4(3.6)	10(9.0)	9(8.1)
高等部	104	6(5.8)	12(11.5)	2(1.9)	12(11.5)	7(6.7)

	総回答数	F	G	H	I	J
総回答数	419	32(7.6)	45(10.7)	3(0.7)	13(3.1)	47(11.2)
幼稚部	82	5(6.1)	-	-	5(6.1)	10(12.2)
小学部	122	9(7.4)	15(12.3)	2(1.6)	6(4.9)	15(12.3)
中学部	111	9(8.1)	18(16.2)	0(0)	1(0.9)	8(7.2)
高等部	104	9(8.7)	12(11.5)	1(1.0)	1(1.0)	14(13.5)

	総回答数	K	L	M	O
総回答数	419	31(7.4)	36(8.6)	27(6.4)	7(1.7)
幼稚部	82	-	7(8.5)	-	3(3.7)
小学部	122	10(8.2)	11(9.0)	10(8.2)	2(1.6)
中学部	111	11(9.9)	11(9.9)	7(6.3)	1(0.9)
高等部	104	10(9.6)	7(6.7)	10(9.6)	1(1.0)

(A：基本的マナー（挨拶、身だしなみ等）、B：他者への配慮、思いやり、C：協調性、D：自己判断力、E：忍耐力（がまん等）、F：責任感、G：問題解決力、H：素直さ、I：規則遵守、J：コミュニケーション意欲、K：自己表出力、L：指示理解力、M：学習意欲（主体性）、O：その他）

7) キャリア教育に関わる指導内容の評価方法

表 4-2-2-7 キャリア教育担当者回答：キャリア教育に関わる指導内容の評価方法
(複数回答：件・%)

	総回答数	A	B	C	D
総回答数	190	75(39.5)	78(41.1)	16(8.4)	21(11.1)
幼稚部	38	17(44.7)	14(36.8)	3(7.9)	4(10.5)
小学部	50	18(36.0)	19(38.0)	8(16.0)	5(10.0)
中学部	56	21(37.5)	25(44.6)	4(7.1)	6(10.7)
高等部	46	19(41.3)	20(43.5)	1(2.2)	6(13.0)

(A：個別の指導計画に反映させている、B：学部会等で話題にしている、C：行っていない、D：その他)

おわりに

国立特別支援教育総合研究所においては、各校におけるキャリア教育の推進に伴い、障害種別における調査を実施しました。本調査では、幼稚部から高等部までの各段階におけるキャリア教育の取組の現状について把握することができました。本調査からは、例えば、関係諸機関との連携においては、各発達段階に対応した連携の実態が示され、キャリア教育とは、「幼児児童生徒一人一人のキャリア発達を促す」という原理に従って、各学校での実践が浸透しつつあることがうかがわれました。

かつて特別支援学校（聴覚障害）においては、「手に職をつける」ことを目指してきた経緯がありますが、キャリア教育の考え方の浸透に伴い、一人一人の子どもの「心の醸成」が求められています。本調査の結果から各発達段階（各学部間）の連携が一層重要であると思われました。

また、本調査では、各学部主事とキャリア教育を担当されている教員を対象に実施しました。各質問項目については、両者間に大きな意識の違いはなく、問題意識の共有化が図られていることが示されました。

今後も研究班としては、経年的に本調査を実施し、多様性を増す聴覚障害のある幼児児童生徒に対するキャリア教育の推進に資する資料を提供していきたいと考えております。

最後に、短期間の調査にも関わらず本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきました特別支援学校（聴覚障害）の校長先生はじめ教員の皆様に、深く感謝申し上げます。

平成 29 年 9 月

聴覚障害教育研究班
原田 公人

【資料】
特別支援学校（聴覚障害）におけるキャリア教育の実態調査
— 幼稚部用 —

学 校 名	
-------	--

このアンケート調査は、幼稚部所属の主事（主任）1名、及びキャリア教育・進路指導の分掌部に所属されている先生1名（計2名）に記入のご協力をお願いします。

必要に応じて行を増やしても構いません。
本調査は、（1）回答者の基礎情報、（2）関係機関等の連携、（3）指導の実践から構成しています。
回答結果については、回答者個人や学校が特定できないように統計的な処理をします。また、回答いただいた調査票は、鍵付きロッカーに適切に管理し、研究終了後は一定の期間を経た後に適切に廃棄します。

（参考）

キャリア教育の定義

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

キャリア発達の定義

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程

※ 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）（平成23年中央教育審議会）

（1） 本調査の回答者についてお尋ねします。当てはまるものを1つ選び、○をつけてください。

※ 平成28年5月1日現在でご記入ください。

①担当	() 学部主事	() カリヤ教育担当者
②担任等	() 学級担任	() 副担任 () 学年所属 () 学部所属 () その他 ()
③教職経験年数	() 1～5年未満 () 5～10年未満 () 10～15年未満 () 15年以上	
④特別支援教育（聴覚障害）経験年数	() 1～5年未満 () 5～10年未満 () 10～15年未満 () 15年以上	
⑤特別支援教育（聴覚障害）以外の経験の有無	() ある () ない	
⑥現在の勤務校在籍年数	() 1～5年未満 () 5～10年未満 () 10～15年未満 () 15年以上	
⑦幼稚部の担当経験年数	() 1～5年未満 () 5～10年未満 () 10～15年未満 () 15年以上	

（2） ※学部主事（主任）のみ、ご回答ください。

関係機関等についてお尋ねします。当てはまるものに○をつけてください。

①貴校と連携している福祉や行政機関・医療機関等を選択し（複数回答可）、主に連携している機関名をご回答ください。	() 福祉機関 () 行政機関 ()
	() 医療機関 () 労働機関 ()
	() 幼稚園・保育所 () 小学校
	() その他の教育機関 ()
②貴校では、修了生との交流を行っていますか。交流内容を具体的に「ご回答ください」。	() 行っている（交流内容： ()
	() 行っていない
③貴校では、修了生の保護者との交流を行っていますか。交流内容を具体的に「ご回答ください」。	() 行っている（交流内容： ()
	() 行っていない
④貴学部の在籍人数および、特別支援学校（聴覚障害）以外の保育所、幼稚園、療育機関等から入学した幼児の人数をご回答ください。	() 貴学部の在籍人数 () 人
	特別支援学校（聴覚障害）以外から入学した幼児の人数 () 人

（3） 指導の実践についてお尋ねします。当てはまるものに○をつけてください。

①キャリア教育は、どのような教育活動の場で行われていますか。	() 自立活動 () 休み時間 () その他 ()
②貴学部で実施されているキャリア教育に関する指導内容を、個別指導、集団指導の場でそれぞれ何を行っていますか。	個別指導 ()
	() カリヤ教育は、個別指導で行っていない
	集団指導 ()
	() カリヤ教育は、集団指導で行っていない
③キャリア教育を実施する際に参考にしている資料はありますか。主に参考にしている資料名をご回答ください。	() 市販のテキスト ()
	() 公共機関、企業等による刊行物 ()
	() 自主制作教材 () その他 ()

④キャリア教育を実施する際に参考にしたいと思われる資料の内容は何ですか。
⑤キャリア教育を進めるにあたり個別の指導計画(個別の教育支援計画を含む)の活用内容をご回答ください。 どなたが活用していますか () 学級担任 () 学部的全教員 () その他 () どのように活用していますか () () 特に活用していない
⑥キャリア教育の推進・充実のために学部で課題であると思われるものを、以下の事項から3つ以内で選択してください。 () 早期からの系統的な指導 () 家庭の理解や協力 () 地域、進路先等との連携 (例：一本化された窓口、経験者の配置等) () キャリア教育の教育課程上の位置づけ () キャリア教育に関する情報の十分な保有 () キャリア教育に関する指導体制の明確化 () キャリア教育に関する評価基準の保有 () その他 ()
⑦キャリア教育に関して、1. 貴学部で特に重視して取り組んでいる指導内容、2. 今後考慮する必要があると思われる指導内容をそれぞれ3つ以内で選択してください (双方で回答が重複しても結構です)。
1. 特に重視して取り組んでいる指導内容 () 基本的マナー (挨拶、身だしなみ等) () 他者への配慮、思いやり () 協調性 () 忍耐力 (がまん等) () 責任感 () 規則遵守 () コミュニケーション意欲 () 指示理解力 () その他 ()
2. 今後考慮する必要があると思われる指導内容 () 基本的マナー (挨拶、身だしなみ等) () 他者への配慮、思いやり () 協調性 () 忍耐力 (がまん等) () 責任感 () 規則遵守 () コミュニケーション意欲 () 指示理解力 () その他 ()

⑧貴学部で実施されているキャリア教育に関わる指導内容の評価方法をご回答ください。
() 個別の指導計画に反映させている () 学部会等で話題にしている () 行っていない () その他 ()

これで終わります。ご協力ありがとうございました。

【資料】
特別支援学校（聴覚障害）におけるキャリア教育の実態調査
一小学部用－

学 校 名	
-------	--

このアンケート調査は、小学部所属の主事（主任）1名、及びキャリア教育・進路指導の分掌部に所属されている先生1名（計2名）に記入のご協力をお願いします。

必要に応じて行を増やしても構いません。

本調査は、（1）回答者の基礎情報、（2）関係機関等の連携、（3）指導の実態から構成しています。
回答結果については、回答者個人や学校が特定できないように統計的な処理をします。また、回答いただいた調査票は、鍵付きロッカーに適切に管理し、研究終了後は一定の期間を経た後に適切に廃棄します。

（参考）

キャリア教育の定義

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

キャリア発達の定義

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程

※ 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）（平成23年中央教育審議会）

- （1） 本調査の回答者についてお尋ねします。当てはまるものを1つ選び、○をつけてください。

※ 平成28年5月1日現在でご記入ください。

①担当	() 学部主事	() カリヤ教育担当者
②担任等	() 学級担任	() 副担任 () 学年所属 () 学部所属 () その他 ()
③教職経験年数	() 1～5年未満 () 5～10年未満 () 10～15年未満 () 15年以上	
④特別支援教育（聴覚障害）経験年数	() 1～5年未満 () 5～10年未満 () 10～15年未満 () 15年以上	
⑤特別支援教育（聴覚障害）以外の経験の有無	() ある () ない	
⑥現在の勤務校在籍年数	() 1～5年未満 () 5～10年未満 () 10～15年未満 () 15年以上	
⑦小学部の担当経験年数	() 1～5年未満 () 5～10年未満 () 10～15年未満 () 15年以上	

- （2） ※学部主事（主任）のみ、ご回答ください。

関係機関等についてお尋ねします。当てはまるものに○をつけてください。

①貴校と連携している福祉や行政機関・医療機関等を選択し（複数回答可）、主に連携している機関名をご回答ください。	() 福祉機関 () 行政機関 ()
	() 医療機関 () 労働機関 ()
	() 幼稚園・保育所 () 小学校 () 中学校
	() その他の教育機関 ()
②貴校では、卒業生との交流を行っていますか。交流内容を具体的に「ご回答ください。」	() 行っている（交流内容： ()
	() 行っていない
③貴校では、卒業生の保護者との交流を行っていますか。交流内容を具体的に「ご回答ください。」	() 行っている（交流内容： ()
	() 行っていない
④貴学部の在籍人数および、特別支援学校（聴覚障害）以外の学校から入学した児童の人数をご回答ください。	小学部の在籍人数 () 人
	特別支援学校（聴覚障害）以外の学校から入学した児童の人数 () 人

- （3） 指導の実態についてお尋ねします。当てはまるものに○をつけてください。

①キャリア教育は、どのような教育活動の場で行われていますか。	() 教科指導 () 自立活動 () 総合的な学習の時間 () 特別活動 () 道徳 () 休み時間 () その他 ()
②貴学部で実施されているキャリア教育に関する指導内容を、個別指導、集団指導の場でそれぞれ何を行っていますか。	個別指導 () () カリヤ教育は、個別指導で行っていない 集団指導 () () カリヤ教育は、集団指導で行っていない

③キャリア教育を実施する際に参考になっている資料はありますか。主に参考になっている資料名をご回答ください。 い。	（ ）市販のテキスト（ ） （ ）公共機関、企業等による刊行物（ ） （ ）自主制作教材（ ）その他（ ）
④キャリア教育を実施する際に参考にしたいと思われる資料の内容は何ですか。	
⑤キャリア教育を進めるにあたり個別の指導計画（個別の教育支援計画を含む）の活用内容をご回答ください。 どなたが活用していますか	（ ）学級担任（ ）学部的全教員（ ）その他（ ） どのように活用していますか（ ） （ ）特に活用していない
⑥キャリア教育の推進・充実のために学部で課題であると思われるものを、以下の事項から3つ以内で選択してください。	
（ ）早期からの系統的な指導 （ ）家庭の理解や協力 （ ）地域、進路先等との連携（例：一本化された窓口、経験者の配置等） （ ）キャリア教育の教育課程上の位置づけ （ ）キャリア教育に関する情報の十分な保有 （ ）キャリア教育に関する指導体制の明確化 （ ）キャリア教育に関する評価基準の保有 （ ）その他（ ）	
⑦キャリア教育に関して、1. 貴学部で特に重視して取り組んでいる指導内容、2. 今後考慮する必要があると思われる指導内容をそれぞれ3つ以内で選択してください（双方で回答が重複しても結構です）。	
1. 特に重視して取り組んでいる指導内容	（ ）基本的マナー（挨拶、身だしなみ等）（ ）他者への配慮、思いやり （ ）協調性（ ）自己判断力（ ）忍耐力（がまん等） （ ）責任感（ ）問題解決力（ ）素直さ （ ）規則遵守（ ）コミュニケーション意欲 （ ）自己表出力（ ）指示理解力（ ）学習意欲（主体性） （ ）その他（ ）

2. 今後考慮する必要があると思われる指導内容	（ ）基本的マナー（挨拶、身だしなみ等）（ ）他者への配慮、思いやり （ ）協調性（ ）自己判断力（ ）忍耐力（がまん等） （ ）責任感（ ）問題解決力（ ）素直さ （ ）規則遵守（ ）コミュニケーション意欲 （ ）自己表出力（ ）指示理解力（ ）学習意欲（主体性） （ ）その他（ ）
⑧貴学部で実施されているキャリア教育に関わる指導内容の評価方法をご回答ください。	
（ ）個別の指導計画に反映させている （ ）学部会等で話題にしている （ ）行っていない （ ）その他（ ）	
⑨重複学級に在籍している児童に対しキャリア教育に関して、どのような指導を行っていますか。	

これで終わりです。ご協力ありがとうございました。

【資料】
特別支援学校（聴覚障害）におけるキャリア教育の実態調査
— 中学部用 —

学 校 名	
-------	--

このアンケート調査は、中学部所属の主事（主任）1名、及びキャリア教育・進路指導の分掌部に所属されている先生1名（計2名）に記入のご協力をお願いします。

必要に応じて行を増やしても構いません。
本調査は、（1）回答者の基礎情報、（2）関係機関等の連携、（3）指導の実態から構成しています。
回答結果については、回答者個人や学校が特定できないように統計的な処理をします。また、回答いただいた調査票は、謝付きロッカーに適切に管理し、研究終了後は一定の期間を経た後に適切に廃棄します。

（参考）

キャリア教育の定義

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

キャリア発達の定義

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程
※ 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）（平成23年中央教育審議会）

- （1） 本調査の回答者についてお尋ねします。当てはまるものを1つ選び、○をつけてください。

※ 平成28年5月1日現在でご記入ください。

①担当	（ ） 学部主事	（ ） キャリア教育担当者		
②担任等	（ ） 学級担任	（ ） 副担任	（ ） 学年所属	（ ） 学部所属
（ ） その他	（ ） 他	（ ）		
③教職経験年数	（ ） 1～5年未満	（ ） 5～10年未満	（ ） 10～15年未満	（ ） 15年以上
④特別支援教育（聴覚障害）経験年数	（ ） 1～5年未満	（ ） 5～10年未満	（ ） 10～15年未満	（ ） 15年以上
⑤特別支援教育（聴覚障害）以外の経験の有無	（ ） ある	（ ） ない		
⑥現在の勤務校在籍年数	（ ） 1～5年未満	（ ） 5～10年未満	（ ） 10～15年未満	（ ） 15年以上
⑦中学部の担当経験年数	（ ） 1～5年未満	（ ） 5～10年未満	（ ） 10～15年未満	（ ） 15年以上

- （2） ※学部主事（主任）のみ、ご回答ください。

関係機関等についてお尋ねします。当てはまるものに○をつけてください。

①貴校と連携している福祉や行政機関・医療機関等を選択し（複数回答可）、主に連携している機関名をご回答ください。	（ ） 福祉機関	（ ） 行政機関	（ ）
	（ ） 医療機関	（ ） 労働機関	（ ）
	（ ） 幼稚園・保育所	（ ） 小学校	（ ） 中学校
	（ ） その他の教育機関	（ ）	（ ） 高等学校
②貴校では、卒業生との交流を行っていますか。交流内容を具体的に「ご回答ください。」	（ ） 行っている（交流内容：（ ）		
	（ ） 行っていない		
③貴校では、卒業生の保護者との交流を行っていますか。交流内容を具体的に「ご回答ください。」	（ ） 行っている（交流内容：（ ）		
	（ ） 行っていない		
④貴学部の在籍人数および、特別支援学校（聴覚障害）以外の学校から入学した生徒の人数をご回答ください。	中学部の在籍人数	（ ） 人	
	特別支援学校（聴覚障害）以外の学校から入学した生徒の人数	（ ） 人	

- （3） 指導の実態についてお尋ねします。当てはまるものに○をつけてください。

①キャリア教育は、どのような教育活動の場で行われていますか。	（ ） 教科指導	（ ） 自立活動	（ ） 総合的な学習の時間
	（ ） 特別活動	（ ） 道徳	（ ） 休み時間
	（ ） その他	（ ）	（ ）
②貴学部で実施されているキャリア教育に関する指導内容を、個別指導、集団指導の場でそれぞれ何を行っていますか。	個別指導	（ ）	
	（ ） キャリア教育は、個別指導で行っていない		
	集団指導	（ ）	
	（ ） キャリア教育は、集団指導で行っていない		

③キャリア教育を実施する際に参考になっている資料はありますか。主に参考になっている資料名をご回答ください。
（ ）市販のテキスト（ ） （ ）公共機関、企業等による刊行物（ ） （ ）自主制作教材（ ）その他（ ）
④キャリア教育を実施する際に参考にしたいと思われる資料の内容は何ですか。
⑤キャリア教育を進めるにあたり個別の指導計画（個別の教育支援計画を含む）の活用内容をご回答ください。
どなたが活用していますか （ ）学級担任（ ）学部の全教員（ ）その他（ ） どのように活用していますか（ ） （ ）特に活用していない
⑥キャリア教育の推進・充実のために学部で課題であると思われるものを、以下の事項から3つ以内で選択してください。
（ ）早期からの系統的な指導 （ ）キャリア教育に関する家庭への理解の啓発 （ ）家庭の協力 （ ）地域、進路先等との連携（例：一本化された窓口、経験者の配置等） （ ）キャリア教育の教育課程上の位置づけ （ ）キャリア教育に関する情報の十分な保有 （ ）キャリア教育に関する指導体制の明確化 （ ）キャリア教育に関する評価基準の保有 （ ）その他（ ）

2. 今後考慮する必要があると思われる指導内容
（ ）基本的マナー（ ）他者への配慮、思いやり （ ）協調性（ ）自己判断力（ ）忍耐力 （ ）責任感（ ）問題解決能力（ ）素直さ （ ）規則遵守（ ）コミュニケーション意欲 （ ）自己表出能力（ ）指示理解能力（ ）学習意欲 （ ）その他（ ）

これで終わります。ご協力ありがとうございました。

【資料】
特別支援学校（聴覚障害）におけるキャリア教育の実態調査
— 高等部用 —

学 校 名	
-------	--

このアンケート調査は、**高等部所属の主事（主任）1名、及びキャリア教育・進路指導の分掌部に所属されている先生1名（計2名）**に記入のご協力をお願いします。

必要に応じて行を増やしても構いません。

本調査は、（1）回答者の基礎情報、（2）関係機関等の連携、（3）指導の実態から構成しています。
回答結果については、回答者個人や学校が特定できないように統計的な処理をします。また、回答いただいた調査票は、継続きロッカーに適切に管理し、研究終了後は一定の期間を経た後に適切に廃棄します。

（参考）

キャリア教育の定義

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

キャリア発達の定義

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程

※ 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）（平成23年中央教育審議会）

（1） 本調査の回答者についてお尋ねします。当てはまるものを1つ選び、○をつけてください。

※ 平成28年5月1日現在でご記入ください。

①担当	（ ）	学部主事	（ ）	キャリア教育担当者				
②担任等	（ ）	学級担任	（ ）	副担任	（ ）	学年所属	（ ）	学部所属
（ ）	（ ）	その他	（ ）					
③教職経験年数								
（ ）	1～5年未満	（ ）	5～10年未満	（ ）	10～15年未満	（ ）	15年以上	
④特別支援教育（聴覚障害）経験年数								
（ ）	1～5年未満	（ ）	5～10年未満	（ ）	10～15年未満	（ ）	15年以上	
⑤特別支援教育（聴覚障害）以外の経験の有無								
（ ）	ある	（ ）	ない					
⑥現在の勤務校在籍年数								
（ ）	1～5年未満	（ ）	5～10年未満	（ ）	10～15年未満	（ ）	15年以上	
⑦高等部の担当経験年数								
（ ）	1～5年未満	（ ）	5～10年未満	（ ）	10～15年未満	（ ）	15年以上	

（2） ※学部主事（主任）のみ、ご回答ください。

貴校の高等部（本科）卒業生の進路についてお尋ねします。

（ ）の中に、具体的に数字や内容を記入してください。

①貴校の現在の高等部に設置されている学科名と在籍数をご記入ください。 (記入例：機械科 4名、被服科 5名 等)										
（ ）	（ ）	科	（ ）	名、	（ ）	科	（ ）	科	（ ）	名
（ ）	（ ）	科	（ ）	名、	（ ）	科	（ ）	科	（ ）	名
（ ）	（ ）	科	（ ）	名、	（ ）	科	（ ）	科	（ ）	名
②過去3年間の学校卒業後の進路先についてご回答ください。 卒業生総数 （ ） 名										
専攻科進学者 （ ） 名										
大学進学者 （ ） 名										
専門学校・各種学校 （ ） 名										
企業等への就労 （ ） 名										
職業訓練校 （ ） 名										
福祉施設 （ ） 名										
その他 （ ） 名 （ ） 名										
③貴学部の在籍人数および、特別支援学校（聴覚障害）以外の学校から入学した生徒の人数をご回答ください。										
高等部の在籍人数 （ ） 人										
特別支援学校（聴覚障害）以外の学校から入学した生徒の人数 （ ） 人										

（3） ※学部主事（主任）のみ、ご回答ください。

関係機関等についてお尋ねします。当てはまるものに○をつけてください。

①貴校と連携している福祉や行政機関・医療機関等を選択し（複数回答可）、主に連携している機関名をご回答ください。										
（ ）	福祉機関	（ ）	（ ）	行政機関	（ ）					
（ ）	医療機関	（ ）	（ ）	労働機関	（ ）					
（ ）	小学校	（ ）	中学校	（ ）	高等学校					
（ ）	その他の教育機関	（ ）								
②貴校では、卒業生との交流を行っていますか。交流内容を具体的にご回答ください。										
（ ）	行っている	（交流内容：								
（ ）	行っていない									
③貴校では、卒業生の保護者との交流を行っていますか。交流内容を具体的にご回答ください。										
（ ）	行っている	（交流内容：								
（ ）	行っていない									

(4) 指導の実際についてお尋ねします。当てはまるものに○をつけてください。

①キャリア教育は、どのような教育活動の場等で行われていますか。
() 教科指導 () 自立活動 () 総合的な学習の時間
() 特別活動 () 道徳 () 休み時間
() その他 ()
②貴学部で実施されているキャリア教育に関わる指導内容を、個別指導、集団指導の場でそれぞれ何を行っている ますか。
個別指導 ()
() キャリア教育は、個別指導で行っていない
集団指導 ()
() キャリア教育は、集団指導で行っていない
③キャリア教育を実施する際に参考になっている資料はありますか。主に参考になっている資料名をご回答くだ さい。
() 市販のテキスト ()
() 公共機関、企業等による刊行物 ()
() 自主制作教材 () その他 ()
④キャリア教育を実施する際に参考にしたと思われる資料の内容は何ですか。
⑤キャリア教育を進めるにあたり個別の指導計画(個別の教育支援計画を含む)の活用内容をご回答ください。 どなたが活用していますか
() 学級担任 () 学部の全教員 () その他 ()
どのように活用していますか ()
() 特に活用していない
⑥キャリア教育の推進・充実のために学部で課題であると思われるものを、以下の事項から3つ以内で選択して ください。
() 早期からの系統的な指導
() キャリア教育に関する家庭への理解の啓発
() 家庭の協力
() 地域、進路先等との連携 (例：一本化された窓口、経験者の配置等)
() キャリア教育の教育課程上の位置づけ
() キャリア教育に関する情報の十分な保有
() キャリア教育に関する指導体制の明確化
() キャリア教育に関する評価基準の保有
() その他 ()

⑦キャリア教育に関して、1. 貴学部で特に重視して取り組んでいる指導内容、2. 今後考慮する必要があると思わ
れる指導内容をそれぞれ3つ以内で選択してください (双方で回答が重複しても結構です)。

1. 特に重視して取り組んでいる指導内容
() 基本的マナー () 他者への配慮、思いやり
() 協調性 () 自己判断力 () 忍耐力
() 責任感 () 問題解決能力 () 素直さ
() 規則遵守 () コミュニケーション意欲
() 自己表出能力 () 指示理解能力 () 学習意欲
() その他 ()
2. 今後考慮する必要があると思われる指導内容
() 基本的マナー () 他者への配慮、思いやり
() 協調性 () 自己判断力 () 忍耐力
() 責任感 () 問題解決能力 () 素直さ
() 規則遵守 () コミュニケーション意欲
() 自己表出能力 () 指示理解能力 () 学習意欲
() その他 ()

特別支援学校（聴覚障害）におけるキャリア教育実態調査報告書

担当者（聴覚障害教育研究班）

原田 公人 （インクルーシブ教育推進センター 上席総括研究員）

定岡 孝治 （研修事業部 総括研究員）

山本 晃 （研究企画部 総括研究員）

新谷 洋介 （情報・支援部 主任研究員）

平成 29 年 9 月

著作 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

発行 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

〒239-8585 神奈川県横須賀市野比 5 - 1 - 1

電話 046-839-6803（代表）
